

ADI 国際会議プログラム

国際会議は、主に「全体会」「ADI ワークショップ」「パラレルセッション」「ポスター発表」の 4 つと、スポンサー団体が実施する「スポンサーシンポジウム」に分かれます。

お願い

名前の漢字間違い、誤字・誤訳があれば、国際会議事務局または本部事務局までお知らせください。ADI と MCI（会議専門業者）に連絡いたします。

目次

- 全体会…………… テーマや出演者を紹介します。
- ADI ワークショップ…………… テーマや出演者を紹介します。
- 特別半日シンポジウム (4/26) WHO と英国アルツハイマー病協会による特別イベントの紹介。
- タイムテーブル…………… パラレルセッションのタイトルや出演者を紹介します。
- ポスター発表…………… ポスター発表の内容を紹介します。

全体会

全体会は、メインホールを使って開催される、より重要なテーマを扱う講演です。3 日間で 5 回行われます。

主題 1ー 認知症の世界的見地

2017 年 4 月 27 日木曜日 9:30-11:00



Marc Wortmann (マーク・ウォートマン、英国)

プレゼンテーションの表題：1980 年代初頭から 2017 年までの認知症ムーブメントの概要
 マーク・ウォートマンは、アルツハイマー病・インターナショナル (ADI) の代表です。マークはオランダの Utrecht 市で法律と美術を学び、15 年にわたって販売業の実業家をしていました。この期間中、彼は Utrecht 地方議会のメンバーを務め、様々なチャリティーやボランティア団体と近しく職務を行いました。彼は、2000 年にアルツハイマー病・インターナショナル (ADI) の代表に就任しました。2002 年から 2005 年にはオランダ募金協会の議長を務め、2004 年から 2007 年には欧州募金協会の副会長を務めました。マークは 2006 年にはアルツハイマー病・インターナショナル (ADI) の代表に就任しました。



高見国生 (たかみくに、日本)

プレゼンテーションの表題：1980 年から 2017 年までの日本における認知症ムーブメント
 高見国生は京都府職員として働き、認知症を持つ母親の介護をして 8 年になります。彼は日本認知症協会の設立メンバーの 1 人であり、設立当初から 37 年にわたり、代表理事を務めてきました。



黒川清教授 (くろかわきよし、日本)

プレゼンテーションの表題：認知症における世界のコラボレーション
 東大医学部卒。69-84 年在米。79 年 UCLA 内科教授。89 年東大内科教授、96 年東海大医学部長。97 年日本学術会議会長、総合科学技術会議議員 (2003-06 年)、内閣特別顧問 (2006-08 年)、WHO コミッショナー (2005-08 年) 等。2011 年 12 月国会の福島原子力発電所事故調査委員会委員長 (-2012 年 7 月)。国際科学者連合体の役員・委員を務め、幅広い分野で活

躍。2013 年より内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略参与として専門家の立場から多くの意見を発信。2014 年 4 月に英国政府に招聘され World Dementia Council のメンバー。現在日本医療政策機構(HGPI)代表理事、一般社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)代表理事・会長、東京大学名誉教授等。ブログ <<http://www.kiyoshikurokawa.com/>>

主題 2ー 認知症ケアにおける公正さとアクセス

2017 年 4 月 27 日木曜日 11:30-13:00



Faizal Ibrahim 医師(ファイザル・イブラヒム、オーストラリア)

プレゼンテーションの表題：認知症と尊厳

イブラヒム医師は、英国バーミンガムの大学病院に長年勤めた後、2010 年南オーストラリアに移りました。中央アデレードのローカル医療ネットワーク内のクイーン・エリザベス病院にて、老年病学者として働き、認知症とせん妄に特に興味を持っています。彼の他の役割としては、ハモンドケア SBRT の認知症行動管理アドバイスサービス SA 兼クリニック職員があります。イブラヒム医師は南オーストラリアでは他をリードするクリニック医師でもあります。病院での国際認知症ケアのパイロットプログラムと、軽度認知症 AHSQHC ケアキャンペーンの共同リーダーでもあります。また、アルツハイマー消費者同盟 SA の議長も務めています。



Kate Swaffer(ケイト・スワッファー、オーストラリア)

プレゼンテーションの表題：人権の尊重

ケイト・スワッファーは、国際認知症同盟の共同創立者であり、世界認知症カOUNシルのメンバー、また ADI のボードメンバー、アルツハイマー・オーストラリア認知症アドバイス委員会の議長を務めています。

Wollongong 大学の博士課程を習得中であり、認知症ケアについての科学修士号を持っています。ケイトはまた、若年性認知症が始まっているという診断をはるかに超えた生活をしています。認知症患者の人権は、彼女にとって重要なフォーカスポイントです。彼女の名は 2016 年の最も影響力のあるオーストラリア人女性 100 のリストにも掲載され、2016 年の Wollongong 大学卒業生ソーシャルインパクト賞を獲得しました。また彼女は認知症ケアの変革における人道主義者、アクティビストかつ著者でもあります。ケイトは今年、南オーストラリアの「最も活躍したオーストラリア人」に選ばれた。昨年は、最終候補者だったが、本年は、認知症の人の暮らしをよくするための活動がより高く評価された。

主題 3ー 認知症に関する最新の科学

2017 年 4 月 28 日金曜日 9:00-10:30

Philippe Amouyel 博士



Phillipe Amouyel 医学博士はフランスの Lille 大学病院の公衆衛生の教授でられます。博士は公衆衛生と老年病の分子疫学を研究する大型の学術研究ユニットを指導されています。その研究の一部として、アルツハイマー病の決定要素、主に遺伝的要因についての研究は、罹病確立の高いいくつかの遺伝子の新しい発見につながりました。2002~2011 年にかけて、博士は私的な非営利団体、Institut Pasteur de Lille を指導しました。また 2008 年からは、革新的で最先端のアルツハイマーとそれに関連する病気に関する研究を専門的に行うフランスの非営利団体 Fondation Plan Alzheimer の経営責任者でもられます。さらに、30 ヶ国が神経変性病、特にアルツハイマーに対し集中的なイニシャチブを取る、EU Joint Programme on Neurodegenerative Disease Research (JPND—ヨーロッパ連合神経変性病合同研究プログラム)の会長も務められています。



Philip Scheltens 医師(フィリップ・シュルテンズ、オランダ)

プレゼンテーションの主題：医療科学において今私たちはどこにいるのか

フィリップ・シュルテンズ医師はオランダのアムステルダム、VU 大学で学び、1984 年に修士号、1993 年にはアルツハイマー病のマグネティック・リーズナンスイメージングで博士号を取得しました。またアムステルダムの VU 大学医療センターの認知脳科学の教授、またアルツハイマーセンター責任者、ロンドン大学の脳科学名誉教授でもあります。2011 年～2015 年まで、オランダのパールスティング機関 (PSI) の科学責任者も務めました。2012 年には彼はオランダ国内の認知症プラン「認知症デルタプラン」を開始し、2013 年にはそのメンバーの副議長に任命されました。彼は VUmc アルツハイマーセンターの 2000 年からの創立者兼責任者であり、54 名の博士号取得者を輩出しました。

彼は 750 名以上の同輩に読まれた論文や、本の中の 50 以上の章を著し、また数冊の教科書も共同編集しました。彼の働きは最近の Hirsch factor の 91 により広く知られることとなりました。2015 年には「het Alzheimer Myserie」と題された最初のオランダ語本が刊行 (Arbeiderspers) され、2 週間でベストセラーとなりました。彼は 2011 年に王立科学及び美術協会の会員に選出され、2015 年には役員会のメンバーに選ばれました。



Henry Brodaty 教授(ヘンリー・ブロードティ、オーストラリア)

プレゼンテーションの主題：ケア科学において今私たちはどこにいるのか

ヘンリー・ブロードティ教授は健康な脳エイジングセンターの共同代表者であり、エイジング及びメンタルヘルスにおける科学教授兼 UNSW にある認知症共同リサーチセンターの責任者でもあります。彼は経験豊かな精神老年病医であり、シドニーの Prince of Wales 病院の記憶障害クリニックの院長を務めています。彼は国際精神老年病医協会の前会長であり、アルツハイマー・オーストラリア NSW の前会長、国際アルツハイマー病の議長でもあります。彼は著作物の発行に力を入れ、高齢者のメンタルヘルスの熱心な提唱者の 1 人です。

主題 4— 認知症と災害

2017 年 4 月 28 日金曜日 11:00-12:30



栗田主一教授(あわたしゅいち、日本)

プレゼンテーションの主題：日本における最近の地震と個人的な経験

栗田主一教授は東京都健康長寿医療センターの高齢者自立促進に関するリサーチチームのリーダーを務めており、彼はここで認知症政策と認知症フレンドリーなコミュニティの開発に取り組んでいます。また彼は東京都健康長寿医療センターおよび認知症医療センターのディレクターでもあります。東北大学で医学博士号と学術博士号を修得しました。彼は東北大学医学大学院の副教授を務めたこともあり (2000～2005 年)、仙台市立病院認知症医療センターのディレクターも務めました (2005～2009 年)。また東京都健康長寿医療センターおよび認知症医療センターのディレクターでもあります。



Ma Hong 教授(マ・ホン、中国)

プレゼンテーションの表題：中国の地震が認知症の人々に与えた影響

ホン教授は中国 CDC 国立センターの副理事を務めています。彼女の専門分野は危機管理及び公共精神衛生であり、1999 年より中国において主要な災害後の干渉すべてに関与してきた数少ない専門家の 1 人です。最近では、中国の精神衛生サービスシステムの改善に多くの時間を費やし、中国のコミュニティ統合精神衛生サービスモデル等に関連する数件のプロジェクトを同僚と共に開拓してきました。彼女は中国健康省と近い関係を持ちつつ、地方の精神衛生サービスチームとも大変強い絆を保っています。



Hussain Jafri(フセイン・ジャフリ、パキスタン)

プレゼンテーションの表題：認知症の災害対策イニシアティブ

フセイン・ジャフリはパキスタンアルツハイマー協会の創立者兼事務総長であり、彼はアルツハイマーを患う祖父の介護者としての経験から、同団体の創立に至りました。彼は前 ADI 委員会メンバーの 1 人であり、ソーシャルセクターでの様々な職務経験を持ち、また政府や国立、および国際的な非営利団体で働く機会も得ました。フセインは International Alliance of Patients' Organizations (IAPO) の前議長、現役員メンバーを務めています。また彼は、世界保健機関の患者保護プログラム、アドバイザリー・グループの議長も務めています。フセインは遺伝病の予防において博士号を修得し、医学界でコンサルタントとして働いています。

主題 5ー 認知症にやさしい地域社会

キキ・エドワーズ(KikiEdwards)(ナイジェリア)

ナイジェリアがイギリスの「認知症フレンズ」プログラムの概要と資料を用いて認知症に常についてまわる汚名をいかに取り払っているかを知る。その状況に対する国の考え方、行動及び語り方の変革を促すプログラムを展開できるように調整がなされた。ほんの数ヶ月の間にナイジェリアの 36 の州のうち 19 の週において 21 人の認知症フレンズチャンピオンが生まれた。

ファラネ・カボリ(FaranehKaboli)(イラン)

イランアルツハイマー協会による 4500 人の小学生児童に向けた教育プロジェクト

ノエミ・メディナ(NoemiMedina)(アルゼンチン)

アルゼンチンの「A.L.M.A のあるカフェ」汚名と戦い病気に関する認識を高めるために、認知症の人と家族の介護者のためのリソース、サービス、そして支援を提供することに成功。

ミーラ・パッタビラマン(MeeraPattabiraman)(インド)

認知症についての認識を高め認知症の友人を作るためのケーララ州の全地域における舞台演劇による州全体のキャンペーン

マリア・ハワード(MariaHoward)(カナダ)

このプレゼンテーションではブリティッシュ・コロンビア（カナダ）の認知症にやさしい地域社会というイニシアチブの中のアルツハイマーソサエティの概要を人、制度そしてプラクティスの 3 つの分野における進展と開発に関する議論を交えて説明します。ソサエティの CEO であるマリー・ハワードがこのイニシアチブのビジョンとゴール、どのようにソサエティが認知症の人達や介護者と関わっているか、市政の中心的役割そしてイニシアチブのために開発されたツールについてお話しします。

レジーナ・ショー/クリス・ロバーツ(ReginaShaw/ChrisRoberts)(イギリス)

リバプール SURF(サービスユーザーのリファレンスフォーラム)：認知症にやさしい地域社会への取り組み

エニーとヤスミン(EnyandYasmin)(シンガポール)

認知症にやさしい地域社会が国のプロジェクトとして 2016 年にシンガポールで発足。シンガポールにこのプロジェクトが必要な理由、これまでの進展とプロジェクトチームが直面した課題について。

橋本武也(はしもと たけや、日本)

日本中に広がる認知症にやさしい地域:それぞれの方法,それぞれの形で 京都から
京都地域包括ケア推進機構

松永美根子(まつなが みねこ、日本)

日本中に広がる認知症にやさしい地域:それぞれの方法,それぞれの形で 熊本から
老人保健施設「孔子の里」副施設長

ADI ワークショップ

ADI による様々なテーマを取り扱う会議です。3 日間で 5 回行われます。

| ワークショップ WO01 | |
|-----------------------|---|
| 国際認知症連盟 (DAI) ワークショップ | |
| 認知症と診断されたら:最初にやるべきこと | |
| 時間/会場 | 14:00-15:30/ルーム D (1 階) |
| 司会者と講演者 | Kate Swaffer 氏 / Mick Carmody 氏 |
| 内容 | このワークショップでは、国際認知症連盟 (Dementia Alliance International: DAI) の会員による認知症と診断された際の体験、また認知症と共に生きるとはどういうことかについての概要が述べられます。その中で現状の標準的な介護の在り方を示した上で、認知症の人々の人権を基本としたアプローチに配慮した障害者支援、リハビリテーションといったサポートへの道筋との相違について検討します。ワークショップでは、認知症当事者、家族、研究者および医療従事者の方々に認知症の登壇者たちへ質問する機会が設けられます。また認知症と共に生きることを実際について理解を深めるため、小グループに分かれ特定のトピックについて考える機会も設けられます。このワークショップは、Kate Swaffer 氏および Mick Carmody 氏が進行役をつとめます。 |

| ワークショップ WO02 | |
|---------------------------------|--|
| 認知症関係 5 当事者団体ワークショップ | |
| ※ 全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会 | |
| ※ 男性介護者と支援者の全国ネットワーク | |
| ※ 日本認知症ワーキンググループ | |
| ※ レビー小体型認知症サポートネットワーク | |
| ※ (公社) 認知症の人と家族の会 | |
| タイトル: 認知症に関わる当事者団体の役割と今後の課題 | |
| 時間/会場 | 16:00-17:30/ルーム D (1 階) |
| 司会者 | 座長: 本間 昭 おたふくもの忘れクリニック院長 |
| 講演者 | 伊藤美和, 田中悠美子: 全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会 |
| | 津止正敏: 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 事務局長 |
| | 発表者未定: 日本認知症ワーキンググループ |
| | 長澤かほる: レビー小体型認知症サポートネットワーク 東京 代表 |
| | 田部井康夫: (公社) 認知症の人と家族の会 副代表 |
| | 杉野文篤: (公社) 認知症の人と家族の会 ADI 2017 国際会議組織委員 |
| DY Suharya ADI アジア太平洋地域事務所 事務局長 | |
| 内容 | 認知症に関する課題は幅広い様々な課題がある。日本全国には当事者が中心となって活動する団体が多数あり、それぞれの課題に沿った活動を展開している。重点とする課題はさまざまであるが、共通の目標は「社会全体が認知症を自分ごととして考え認知症になっても安心して暮らせる社会をつくること」である。今回のワークショップでは、国内の 5 当事者団体と海外からの参加者が問題意識を共有し「安心して暮らせる社会」をつくるための当事者団体の役割と今後の課題について話し合いたい。 |

| | |
|--|---|
| | なお、ここでいう認知症に関わる当事者とは、認知症の本人と家族とその支援者のことを指し、当事者団体とは、当事者が中心になって運営を行っている団体をいう。 |
|--|---|

ワークショップ WO03

日本認知症ワーキンググループ

認知症の人々による希望を繋ぐリレー： 認知症当事者から新たな認知症当事者へ灯す希望の光

| | |
|-------|---|
| 時間/会場 | 14:00-15:30/ルーム D (1 階) |
| 司会者 | 丹野智文氏 |
| 講演者 | 藤田和子氏 / 佐藤雅彦氏 / 奥公一氏 / 平みき氏 / 丹野智文氏 / 竹内裕氏 / 石原哲郎氏 |
| 内容 | <p>「より良く生きる、認知症と共に」は、認知症でない人々と同じように認知症の人々にとって大きな望みです。認知症の人々は、他の同じ病を得た人々と出会うことで希望を見出します。そんな私たちの体験、思い、考えを分かち合います。私達の会の仲間たちは、共に活動し始めると生きる希望を見出します。このワークショップでは、認知症の人々がワーキンググループの活動の中心に置かれることで伝搬していく真の希望について、認知症当事者とその介護者たちが発表します。各プレゼンテーションでは、それぞれの違った視点、立ち位置にもとづいて、地域社会での願いを込めた取り組みや、情報交換をしている英国の認知症ワーキンググループ（the Dementia Working Group）からの学びについて報告されます。</p> <p>日本認知症ワーキンググループ（JDWG）の会員は認知症と診断され、全ての人が認知症と共により良く生きることが出来る地域社会づくりへの協力活動に取り組んでいます。このワークショップは認知症の人々が、介護者、友人たちの協力を得て企画し、共に推進するものです。</p> |

ワークショップ WO04

国際アルツハイマー病協会（ADI）

より多くの認知症患者に研究参加してもらうには

| | |
|-------|--|
| 時間/会場 | 14:00-15:30 ルーム D (1 階) |
| 司会者 | Marc Wortmann |
| 講演者 | Marc Wortmann / Piers Kotting / Henry Brodaty |
| 内容 | <p>ADI は 2016 年から 2019 年の長期計画案の中で、認知症研究についての情報を収集し、広めることで臨床試験への参加を促し、また臨床研究を推進し、臨床研究の人材増加を図るため他のパートナーと一緒に協力し合いたいと述べています。これは薬の開発へ向けたものであると同時に、介護の実践、予防やリスク減少に関する調査や、認知症の有病率および発症率に関する研究などの公衆衛生研究について検討するものです。</p> <p>本ワークショップでは、エントリーされた中からオーストラリアのニューサウスウェールズ大学からの報告、英国の Join Dementia Research プログラムや 2017 年 6 月から開始される ADI イニシアチブなど、様々な国で実施されているイニシアチブについて焦点が当てられます。</p> |

ワークショップ WO05

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ (DFJI)、公益社団法人認知症の人と家族の会 (AAJ)、World Young Leaders in Dementia (WYLD)

認知症者にやさしいまちの指標について： 認知症者にとってやさしいまちとは、またやさしいまちづくりを促進するには

| | |
|----------|----------------------------|
| 時間 会場 | 14:00-15:30 ルーム D (1 階) |
|----------|----------------------------|

特別半日シンポジウム

英国アルツハイマー協会と WHO 神戸センターの協賛により、参加者は無料で参加できる特別シンポジウムが行われます。



ADI 2017 シンポジウム:認知症に優しい世界を作る

4月26日(水) 13:30~17:00

この会議前イベントでは、世界中の認知症に優しいイニシアチブをご紹介します、認知症に優しい世界を築くために他者と協力し、話し合い、またネットワークを作る機会をご提供します。

第32回 ADI 国際会議に参加される方の参加費は無料です。

認知症に優しい、また認知症に対する意識を高めるためのイニシアチブデザイン、実施またモニタリングに関わる方々は、特にご参加を強くお勧めします。また、クリニック医やケアの専門家、研究者、科学者、政府代表者、市民社会、WHO、メディア、認知症を抱える人々やそのサポーターの方々にもご興味を持っていただける内容となっています。

シンポジウムのプログラムとご登録はこちらから:

<https://adi2017symposium.eventbrite.co.uk>

このシンポジウムは、アルツハイマー・インターナショナル (ADI) のパートナーである、英国アルツハイマー協会と WHO 神戸センターの協賛により実現されました。

タイムテーブル

2017年4月27日(木)

| 時間/ルーム | セッションコード | タイトル |
|---------------------------|----------|---|
| 07:30-08:30 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム |
| 07:30-08:45 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |
| | | |
| 08:45-09:30 大ホール | | 歓迎セレモニー |
| | | |
| 09:30-11:00 大ホール | | 認知症に関する世界的局面 |
| 09:30-10:00 | PL01 | 1980年初頭から2017年までの認知症の動向の概要 マーク・ウォートマン(Marc Wortmann)(イギリス) |
| 10:00-10:30 | PL02 | 1980年から2017年までの日本における認知症の動向 高見国生(Kunio Takami)(日本) |

| | | |
|---------------------------|---------|--|
| 10:30-11:00 | PL03 | 次世代に継承したい知識と知恵 黒川清(KiyoshiKurokawa)(日本 WDC) |
| 11:00-11:30 | | 休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| 11:00-12:30 大ホール | | 認知症ケアにおける公正さとアクセス |
| 11:00-11:30 | PL04 | 心、頭そして行動において尊厳のあるケア:認知症と尊厳-いかなる形の虐待の排除:深刻な地域でのケアにおける認知症の人と介護者体験の改善 ファイザル・イブラヒム(FaizalIbrahim)(オーストラリア) |
| 11:30-12:00 | PL05 | 認知症の人の人権の尊重 ケイト・スワッファー(KateSwaffer)(オーストラリア) |
| 12:00-12:30 | PL06 | アドバンスケアプラン リー・リン(LiLing)(シンガポール) |
| 13:00-14:00 | | 昼食休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| 13:00-14:00 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム |
| 13:00-14:00 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |
| 14:00-15:30 大ホール | O01 | 診断と画像診断 |
| 14:00-14:15 | O01-001 | アルツハイマー病の行動及び心理的症状を審査するための簡単で新しいスコア (ABS) 阿部浩二(KojiAbe)(日本) |
| 14:15-14:30 | O01-002 | ダウン・アルツハイマー・バルセロナ・ニューロイメージング・イニシアチブ (DABNI) プロジェクト:ダウン症に合併するアルツハイマー病のバイオマーカーを研究する臨床試験対応のコホート研究 フアン・フォルテア(JuanForte)(スペイン) |
| 14:30-14:45 | O01-003 | 認知症と閉塞性睡眠時無呼吸 ラメル・カルロス(RamelCarlos)(グアム) |
| 14:45-15:00 | O01-004 | メモリークリニック患者に対する初期の臨床診断に大きな影響を与える追加診断検査 ヘレン・ウー (HelenWu)(オーストラリア) |
| 15:00-15:15 | O01-005 | アルツハイマークリニックの患者の募集と維持に対する試み:MRI 及び PET 画像多用の気づかれていない影響 コーカン・シャムシ(KohkanShamshi)(アメリカ) |
| 15:15-15:30 | O01-006 | プラズマ β アミロイドとコーティカルアミロイド蓄積の関連性に与えるアポ蛋白 E 表現型の効果 館野周(AmaneTateno)(日本) |
| 14:00-15:30 ルーム A | O02 | 認知症政策と公的な政策イニシアチブ |
| 14:00-14:15 | O02-001 | 『YUBA メソッド』とカラオケを認知症治療に用いたアルツハイマー病の非医学的治療に関する国家政策の提案 弓場徹 (ToruYuba)(日本) |
| 14:15-14:30 | O02-002 | オーストリアの最新の認知症に関するレポートがいかに移民のニーズをないがしろにしているか ネヴァン・アルティントップ(NevinAltintop)(オーストリア) |
| 14:30-14:45 | O02-003 | アルツハイマー病における行動症状治療のための抗精神病薬の使用とそれが患者に与える影響に関する医学的なガイドラインのレビュー ミルレーン・エイグボーガン(MyrleneAigbogun)(アメリカ) |

| | | |
|---------------------------|---------|---|
| 14:45-15:00 | O02-004 | コスタリカにおけるアルツハイマー政策。中・低所得国として初のアルツハイマー政策の過去3年間の進展。 ノーベル・ローマン(NorbelRoman)(コスタリカ) |
| 15:00-15:15 | O02-005 | 意識の向上に始まり認知症についての国家政策ができるようになるまで ステファニア・ズロベック(StefaniaZlobec)(スロベニア) |
| 15:15-15:30 | O02-006 | 「認知症にやさしい」というラベルを貼るべきか、貼らないべきか ステファニー・ベッカー(StefanieBecker)(スイス) |
| | | |
| 14:00-15:30 アネックスホール 2 | O03 | 介護職の教育と研修 |
| 14:00-14:15 | O03-001 | 新しいオーストラリアの認知症に関するガイドラインに含む介護者のためのガイドの作成 ジェーン・トンプソン(JaneThompson)(オーストラリア) |
| 14:15-14:30 | O03-002 | ガーナにおける医学生への認知症に対する認識。全学部対象の調査結果。 スザンヌ・スピッテル(SusanneSpittel)(ドイツ) |
| 14:30-14:45 | O03-003 | 認知症の MOOC (大規模公開オンライン講座)を防ぐ: 市民の健康に関する教育という位置付けに変える ジェームス・ビッカーズ(JamesVickers)(オーストラリア) |
| 14:45-15:00 | O03-004 | 認知症の人々に教育に基づいたスキルを持つケアを提供するための救急総合病院のスタッフの育成 ジョアン・ブルック(JoanneBrook)(イギリス) |
| 15:00-15:15 | O03-005 | GPS を使った認知症ケアの質的研究に関する教育ニーズ トニー・フォリー(TonyFoley)(アイルランド) |
| 15:15-15:30 | O03-006 | 公開オンライン教育: 認知症に関する知識を現代の環境や学生向けに変換する マシュー・カークカルディー(MatthewKirkcaldie)(オーストラリア) |
| | | |
| 14:00-15:30 ルーム B1 | O04 | 環境とデザイン |
| 14:00-14:15 | O04-001 | 生涯学習という視点で既存の校舎を再建した認知症デイケアセンターのケアモデル - 南台湾のダートンデイケアセンターの事例 Y. ション(Y.Xiong)(中国) |
| 14:15-14:30 | O04-002 | イギリスにおける認知症の人とその介護者と共に生活している人達によるホーム適応アドバイスの利用について フラン・アレン(FlanAllen)(イギリス) |
| 14:30-14:45 | O04-003 | 認知症にやさしいコミュニティに必要な物理的環境と制度設定 --- スコットランドと日本の町の比較 --- 井上裕(YutakaInoue)(日本) |
| 14:45-15:00 | O04-004 | 既存の建物を復活及び再利用した地域に基づく高齢者デイサービス環境という観点からの議論 - 高雄 DatungFule 高齢者デイサービスセンターの例 Y.H. ワン(Y.H.Wang)(中国) |
| 15:00-15:15 | O04-005 | 軽度認知障害を患う人のためにできる環境改善の小さなアイデア 宮野順子(JunkoMiyano)(日本) |
| 15:15-15:30 | O04-006 | 認知症や視力障害のある人のための環境構築に利用できるベストプラクティスガイドラインの作成 アリソン・ボウズ(AlisonBowes)(イギリス) |
| | | |
| 14:00-15:30 アネックスホール 1 | O05 | 認知症にやさしい地域社会 1 |
| 14:00-14:15 | O05-001 | ルーマニアは認知症にやさしい社会か？ - ルーマニアの心理学者、建築士、非専門職員に行った重要な調査 マリア・モグラン(MariaMoglan)(ルーマニア) |
| 14:15-14:30 | O05-002 | 遠隔あるいは田舎地域の地域性認知症モザイク ナンシー・マックアダム(NancyMcAdam)(イギリス) |
| 14:30-14:45 | O05-003 | ベルギーの認知症にやさしい政策: 寄り添いの行動と「共に生きる」という概念に重 |

| | | |
|---------------------------|---------|--|
| | | きをおく サビーン・ヘンリー(SabineHenry)(ベルギー) |
| 14:45-15:00 | O05-004 | アフリカにおけるこれからの高齢化社会:課題と機会 デイビッド・ンデティ(DavidNdeti)(ケニア) |
| 15:00-15:15 | O05-005 | 認知症にやさしいコミュニティスポンサーの視点 アンナ・ブキャナン(AnnaBuchanan)(イギリス) |
| 15:15-15:30 | O05-006 | 認知症の人が近隣において実際に体験したことに関する街頭インタビュー エルザナ・オドゥザコビック(ElzanaOdzakovic)(スウェーデン) |
| | | |
| 14:00-15:30 ルーム D | WO01 | 国際認知症連盟(DAI) 認知症と診断された場合:次にどうすればいいのか? |
| | | |
| 15:30-16:00 | | 午後の休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| | | |
| 16:00-17:30 大ホール | O06 | リスク因子と健康的な加齢 |
| 16:00-16:15 | O06-001 | ゲームを用いたメモリートレーニング:「ジョバーニ・ネル・テンポ」プロジェクト アンドレア・ファッボ(AndreaFabbo)(イタリア) |
| 16:15-16:30 | O06-002 | コミュニティに住む高齢者の異なる認知領域の軌跡 ジェニファー・イー・マン・タン(JenniferYee-ManTang)(香港) |
| 16:30-16:45 | O06-003 | マウスに見られる鉛誘発性炎症、学習生涯及び記憶喪失:ウコンの神経保護効果 ジットバンジョン・タンポン(JitbanjongTangpong)(タイ) |
| 16:45-17:00 | O06-004 | 加齢は大学教育に関心のある人達の障壁ではない:認知症になる危険度を下げる ための中高年向け政策として有効か ジェームス・ヴィッカーズ(JamesVickers)(オーストラリア) |
| 17:00-17:15 | O06-005 | カメルーンの高齢者人口における高血圧症と認知障害:コミュニティベースの研究 フランク・ティアンイー(FrankTianyi)(カメルーン) |
| 17:15-17:30 | O06-006 | 抗うつ薬と認知症リスク:台湾における国全体のコホート研究 チーキン・ツェン(Chee-KinThen)(台湾) |
| | | |
| 16:00-17:30 ルーム B1 | O07 | 認知症のための連携と福祉制度 |
| 16:15-16:30 | O07-002 | 福祉と医療に携わる職員間の相互理解を促進するためにパーソン・センタード・ケアの原則を取り入れた認知症の協力ノートの作成 石原哲郎(TetsuroIshihara)(日本) |
| 16:30-16:45 | O07-003 | なぜ認知症研究に認知症の人自身が関わるのか?個人の義務感と政治的な現実 ジェーン・トンプソン(JaneThompson)(オーストラリア) |
| 16:45-17:00 | O07-004 | 病院を元にした台湾新竹市の認知症コミュニティケアセンターの建築 ユーイン・チュー(Yu-YingChu)(中国) |
| 17:00-17:15 | O07-005 | 認知症に関する社会研究と革新を促進するための国民連合-研究者、専門家、認知症の人と同居している人、介護パートナーやステークホルダーの団結 ファブリス・グジル(FabriceGzil)(フランス) |
| 17:15-17:30 | O07-006 | 症状を理解するためのプレゼンテーション、日本でのアルツハイマー病の人々の認識と診断 ウィリアム・モンゴメリー(WilliamMontgomery)(オーストラリア) |
| | | |
| 16:00-17:30 アネックスホール 2 | O08 | 非薬物的介入 |
| 16:00-16:15 | O08-001 | 認知刺激と認知機能の回想法との間にある特有な効果、及び認知症で問題のある行動のタイプによる生活の向上 シウチン・リン(Hsiu-ChingLin)(台湾) |
| 16:15-16:30 | O08-002 | 認知症の人のための心理社会的な介入に関する臨床研修や応用研究において心にとめておくべきである治療の兆候 ケビン・チャラス(KevinCharras)(フランス) |

| | | |
|---------------------------|---------|---|
| 16:30-16:45 | O08-003 | 長期にわたるケアにおいて抗精神病薬を削減することができるアプローチ:HALTプロジェクト ヘンリー・ブロダティ(HenryBrodaty)(オーストラリア) |
| 16:45-17:00 | O08-004 | 中国の認知症の人のためのグループ、及び個人の認知刺激療法(CST)の文化的適応:基礎調査 グロリア・ウォン(GloriaWong)(香港) |
| 17:00-17:15 | O08-005 | 軽度認知障害のある糖尿病タイプ2患者の管理機能に与えるポコボコダンスの効果 リア・マリア・テレサ(RiaMariaTheresa)(インドネシア) |
| 17:15-17:30 | O08-006 | 認知症の人に対する認知行動療法に介護者が介入した場合の介護者の健康に与える影響:構造的なレビューとメタ分析 ブン・レオン(PhuongLeung)(イギリス) |
| 16:00-17:30 ルーム A | O09 | 社会的理解と偏見 |
| 16:00-16:15 | O09-001 | そこにケアがあり、そしてそこにケアがある-それが我々の仕事 ピーター・ベワート(PeterBewert)(オーストラリア) |
| 16:15-16:30 | O09-002 | 台湾の新竹における軽度認知症の人を地域社会が検査するという体験 ユイイン・チュー(YuyingChu)(台湾) |
| 16:30-16:45 | O09-003 | 若者の認知症に対する理解と知識の変化 クリスティン・ニューマン(KristineNewman)(カナダ) |
| 16:45-17:00 | O09-004 | 診断を受けて約10年、ある人の体験談 ジョン・サンドブロム(JohnSandblom)(アメリカ) |
| 17:00-17:15 | O09-005 | 忘れてしまったプロジェクト-オンラインでより若い人達にアクセス:若い介護者に認知症に関する理解を高め、連絡をとり支援を行う メリサ・チャン(MelissaChan)(シンガポール) |
| 17:15-17:30 | O09-006 | 銀の虹を描く-認知症ケアにおけるLGBTIの包括的なプラクティス サマンサ・エドモンズ(SamanthaEdmonds)(オーストラリア) |
| 16:00-17:30 アネックスホール 1 | O10 | パーソン・センタード・ケア |
| 16:00-16:15 | O10-001 | 認知症の人のための映像セラピー 土井輝子(TerukoDoi)(日本) |
| 16:15-16:30 | O10-002 | 認知症になってから寿命まで地域社会での快適な暮らしの実現にむけて:日本発祥の「センター方式」を利用した10年間の実体験からの事実 永田久美子(KumikoNagata)(日本) |
| 16:30-16:45 | O10-003 | 滞在型ケアホームにおける認知症の高齢者の夜間ケアの問題を探る ヘレン・ユエライ・チャン(HelenYue-laiChan)(香港) |
| 16:45-17:00 | O10-004 | 私たちはどれほど人を第一に考えているだろうか? 認知症の人のための介護生活ユニットにおいてパーソン・センタード・ケアを強化するアプローチ ファンジン・コー(HwanJingKoh)(シンガポール) |
| 17:00-17:15 | O10-005 | アジア太平洋各国における長期間のケア施設での心理的認知症ケアに対してヨーロッパでのクオリティ表示を適用できるか ユンヒー・ジェオン(Yun-HeeJeon)(オーストラリア) |
| 17:15-17:30 | O10-006 | 「影の外に」隠れた人口を探して:ケアホームに住む進行性認知症の人とともに カースティー・ハウンチ(KirstyHaunch)(イギリス) |
| 16:00-17:30 ルーム D | WO02 | 日本の5つのステークホルダーグループ 認知症と共存する:ステークホルダーグループの役割 |
| 17:45-18:45 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム |
| 17:45-18:45 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |

プログラムは変更する場合があります。

2017 年 4 月 28 日 (金)

| 時間/ルーム | セッション コード | タイトル |
|---------------------------|--------------|---|
| 07:30-08:30 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム-Biogen 社 アルツハイマー病の進行過程の様子: 初期診断の難しさと患者の体験する過程の 案内 |
| 07:30-08:30 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |
| | | |
| 08:45-09:00 大ホール | | Introduction ChrisRoberts(UnitedKingdom) |
| 09:00-10:30 大ホール | | 認知症に関する最新の科学的知見 |
| 09:00-09:30 | PL07 | アルツハイマー病に関する 110 年間の診断条件 フィリップ・シェルテンス(Prof.Dr.PhilipScheltens)(オランダ) |
| 09:30-10:00 | PL08 | ケア科学はどこまで来たか? ヘンリー・ブロダティ(Prof.HenryBrodaty)(オーストラリア) |
| 10:00-10:30 | PL09 | データ共有と神経変性疾患に関する共同プログラム(JPND), 連携と協力関係の構築 フィリップ・アムイェル (PhilippeAmouyel)(フランス) |
| | | |
| 10:30-11:00 | | 午前の休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| | | |
| 11:00-12:30 大ホール | | 認知症と災害 |
| 11:00-11:30 | PL10 | 日本で最近起こった地震と自分の体験 栗田主一(ShuichiAwata)(日本) |
| 11:30-12:00 | PL11 | 中国の地震が認知症の人に与える影響 マー・ホン(Prof.MaHong)(中国) |
| 12:00-12:30 | PL12 | 認知症のための災害準備イニシアチブ フセイン・ジャフリ(HussainJafri)(パキスタン) |
| | | |
| 12:30-14:00 | | 昼食休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| | | |
| 13:00-14:00 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム-エーザイ株式会社 |
| 13:00-14:00 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |
| | | |
| 14:00-15:30 大ホール | O11 | 新しい治療と方法論 |
| 14:00-14:15 | O11-001 | アルツハイマー型認知症におけるメマンチンの併用が死亡率に及ぼす影響と、ガレ ンタミン治療の有効性:ランダム化されたプラセボ対照試験の事後解析 佐野マリー(MarySano)(アメリカ) |
| 14:15-14:30 | O11-002 | アルツハイマー病を対照とした構造主体のバーチャルスクリーニング、ADMET 分析 と分子動力シミュレーションによる新規のカゼインキナーゼ1デルタ阻害剤の発見 バーンワル・シン・チャウドハリー(BhanwarSinghChoudhary)(インド) |
| 14:30-14:45 | O11-003 | バーチャルリアリティトレーニングが認知障害のある高齢者の平衡機能に及ぼす効 果 イーチェン・リン(Yi-ChengLin)(台湾) |
| 14:45-15:00 | O11-004 | 記憶障害の補足治療における全身冷凍療法 ジョアナ・リマスゼウスカ(JoannaRymaszewska)(ポーランド) |
| 15:00-15:15 | O11-005 | 項目応答理論を用いて、教育水準の低い中国のサンプルにおけるモントリオール |

| | | |
|---------------------------|---------|--|
| | | 認知機能アセスメント(MOCA)の心理測定特性を評価する ハオ・ルオ (HaoLuo)(中国) |
| 15:15-15:30 | O11-006 | 経頭蓋直流電気刺激(TDCS)を用いたアルツハイマー病のためのメモリートレーニング。長期にわたる臨床及びMRI検査。 サヒド・バシール(SahhidBashir)(サウジアラビア) |
| | | |
| 14:00-15:30 ルーム B1 | O12 | 人権と倫理における課題 |
| 14:00-14:15 | O12-001 | 記憶障害のある人の後の人生の法的な整理を支援する社会・医療関係者 ヘンナ・ニクマー(HennaNikumaa)(フィンランド) |
| 14:15-14:30 | O12-002 | 認知症の人々に研究への協力を促す:ファレアロハ・ケアトランジションスタディの事例 ケイ・シャノン(KayShannon)(ニュージーランド) |
| 14:30-14:45 | O12-003 | 認知症と診断されたばかりの人を襲う実際に起こったリスク サリー・オズボーン(SallyOsborne)(オーストラリア) |
| 14:45-15:00 | O12-004 | 「オーライ！人権と高齢者ケア」というドイツ市民の社会的イニシアチブの紹介 マイケル・ハーゴドルン(MichaelHagedorn)(ドイツ) |
| 15:00-15:15 | O12-005 | 緩和医療は認知症の人のための人権である。 ステファン・コナー(StephenConnor)(アメリカ) |
| 15:15-15:30 | O12-006 | 「意志の尊重と成人被後見人の個人的配慮」はどこへ？(日本の成人後見制度に関するレポート) 長崎のぞみ(NozomiNagasaki)(日本) |
| | | |
| 14:00-15:30 アネックスホール 2 | O13 | ケアモデル |
| 14:00-14:15 | O13-001 | インタラクティブアプローチ、新しいタイプのツールとケアの方法で、認知症に関わる人々、専門家、介護者や医者との直接的なコミュニケーションを促進する。 武地一(HajimeTakechi)(日本) |
| 14:15-14:30 | O13-002 | 認知症の人のための場所としての牧場 ウィーンケ・ヤコブセン(WienkeJacobsen)(ドイツ) |
| 14:30-14:45 | O13-003 | 文化的に優れた認知症ケアのナラティブ インクワイアリー クミ・オーヤ(KumiOya)(アメリカ) |
| 14:45-15:00 | O13-004 | イギリスにおける記憶アセスメントサービスの特性と効果について:経年的研究 ミンヘ・パーク(MinHaePark)(イギリス) |
| 15:00-15:15 | O13-005 | 鎮静剤(REDUSE)の使用を抑えるプロジェクトをオーストラリアの介護ホームへ拡張 フアニタ・ルイーズ・ウェストバリー(JuanitaLouiseWestbury)(オーストラリア) |
| 15:15-15:30 | O13-006 | 認知症の早期発見:総合診療の新しいケアモデルが地方における認知症検査を可能にした アデル・アサイド(AdelAsaid)(オーストラリア) |
| | | |
| 14:00-15:30 ルーム A | O14 | テクノロジーと認知症 |
| 14:00-14:15 | O14-001 | 認知症の人(PLWD)と介護者を支援するためのウェブを使った仕組みが使用可能かどうかの調査 パラスケヴィ・ザフェリディ(ParaskeviZafeiridi)(イギリス) |
| 14:15-14:30 | O14-002 | Eヘルスが利用できる看護婦と現場で働く看護婦がリードした「ポップアップメモリークリニック」や地域、地方、遠隔地に住む高齢のオーストラリア人のためのプログラム ヘルガ・メリ(HelgaMerl)(オーストラリア) |
| 14:30-14:45 | O14-003 | ワークショップ-認知症におけるアシスティブ・テクノロジー ジェイコブ・ロイ・クリアコース(JacobRoyKuriakose)(インド) |
| 14:45-15:00 | O14-004 | 認知症ケアの観点から、統合されたモノのインターネット(IOT)を用いたソリューション キャサリン・トリーナ・パーソンズ(CatherineTreenaParsons)(イギリス) |
| 15:00-15:15 | O14-005 | ACTODEMENTIA:認知症の人のための使いやすいアプリ |

| | | |
|---------------------------|---------|--|
| | | アーリーン・アステル(ArleneAstell)(カナダ) |
| 15:15-15:30 | O14-006 | 没入型技術で利用者を一番に考えたケアを進歩させる プリヤンカ・ライ(PriyankaRai)(オーストラリア) |
| | | |
| 14:00-15:30 アネックスホール 1 | O15 | 認知症にやさしい地域社会 2 |
| 14:00-14:15 | O15-001 | 地震を乗り越え AAJ を支援 星節子(SetsukoHoshi)(日本) |
| 14:15-14:30 | O15-002 | 同じ立場の人同志のオンラインサポートグループの力 マイケル・カルモディー(MichaelCarmody)(オーストラリア) |
| 14:30-14:45 | O15-003 | 小中学校における世代間のアルバムを使った認知症の啓発活動小・中学校 竜円誠(MakotoRyuen)(日本) |
| 14:45-15:00 | O15-004 | アルツハイマーの、社会の、認知症の友人:国の認知症に対する考え方、行動、そして話し方の変革 フィリップ・ツリー(PhirippaTree)(イギリス) |
| 15:00-15:15 | O15-005 | 認知症パートナー-韓国における認知症に対する認識度の改善 キウォン・キム(Kiwongkim)(韓国) |
| 15:15-15:30 | O15-006 | 旅のことば:認知症にやさしい社会に向けた協働 伊庭崇(Takashilba)(日本) |
| 15:30-15:45 | O15-007 | 公益社団法人認知症の人と家族の会主催の電話相談活動のスタッフとしての経験から学んだこと 越野稔(MinoruKoshino)(日本) |
| | | |
| 14:00-15:30 ルーム D | WO03 | 日本認知症ワーキンググループ (JDWG) <u>認知症と共によりよい暮らしを:認知症当事者による提案と行動-海外から日本へ、そして日本から海外へ</u> |
| | | |
| 15:30-16:00 | | 午後の休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| | | |
| 16:00-17:45 大ホール | O16 | 疫学 |
| 16:00-16:15 | O16-001 | GMSAGECAT アルゴリズムと DSM-III-R の条件を用いた認知症の診断比較 ルー・ガオ(LuGao)(イギリス) |
| 16:15-16:30 | O16-002 | 潜在的に変更可能な環境と生活習慣のリスク因子が若年発症認知症を引き起こす要因とは?インスピレーションを受けた研究の結果 エイドリアン・ウィットホール(AdrienneWithall)(オーストラリア) |
| 16:30-16:45 | O16-003 | 流行しているアジア諸国における特定の神経精神症状をケアする老人ホームの違い 寺田沙耶(SayaTerada)(日本) |
| 16:45-17:00 | O16-004 | 睡眠障害のあるアルツハイマー病の患者についての詳細な研究 樋上容子(YokoHigami)(日本) |
| 17:00-17:15 | O16-005 | アメリカにおける主観的な記憶と機能の限界における傾向:アメリカの国民健康栄養調査(NHANES)によるマッチングを行なったケース・コントロールの分析 ミルレーン・アイグボーガン(MyrleneAigbogun)(アメリカ) |
| 17:15-17:30 | O16-006 | 認知症と地域に住む高齢男性の非選択的養護:コンコルドの男性の健康と加齢に関するプロジェクト ベンジャミン・スー(BenjuminHsu)(オーストラリア) |
| | | |
| 16:00-17:45 アネックスホール 1 | O17 | ケアの調整と連携 |
| 16:00-16:15 | O17-001 | 認知症の人のためのケア管理の有効性に影響を与える主な要素:ナラティブ統合の構造的な見直し アラステア・ジン/ロン・チャン(AlastairJinLonChan)(香港) |
| 16:15-16:30 | O17-002 | シドニー北部における認知症の人の困難の改善 |

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| | | スーザン・クルル(SusanKurrle)(オーストラリア) |
| 16:30-16:45 | O17-003 | スウェーデンのクリスチャンスタッドにあるメモリークリニックと CSK 病院の糖尿病セクション間で糖尿病を体験した患者の協力をもとに認知機能に従ってセルフケアを調整する アンマリー・リジェロス(Ann-MarieLiljeroth)(スウェーデン) |
| 16:45-17:00 | O17-004 | 日本における認知症の人のための新しいケア方法: 小さなグループホーム環境における多機能ケア(MCHS) 松井典子(NorikoMatsui)(日本) |
| 17:00-17:15 | O17-005 | 8本の柱モデル: 地域における認知症の人と介護者のための組織的なケアを改善する ミシェル・ミラー(MichelleMiller)(イギリス) |
| 17:15-17:30 | O17-006 | 認知症初期段階の集中的なサポートに必要とされる役割と問題 村島久美子(KumikoMurashima)(日本) |
| | | |
| 16:00-17:45 ルーム B1 | O18 | 医療経済学 |
| 16:00-16:15 | O18-001 | アルツハイマー病の重症度が日本の患者の医療資源の使い方に与える影響 レザル・カンドカー(RezaulKhandker)(アメリカ) |
| 16:15-16:30 | O18-002 | 認知症診断と認知障害の度合いが地域の高齢者のためのフォーマル及びインフォーマルなケアの時間に与える影響 テリーY/S ラム(TerryY/SLum)(香港) |
| 16:30-16:45 | O18-003 | 軽度認知障害から認知症への進行を予測するために脳脊髄液にアルツハイマー病バイオマーカーを使用することの費用効果 アンデルス・ウィルモ(AndersWimo)(オランダ) |
| 16:45-17:00 | O18-004 | 認知症と診断された後に外来病棟を利用する傾向についての観察結果-8 年間にわたるフォローアップ研究 イェンニー・フン(Yen-NiHung)(台湾) |
| 17:00-17:15 | O18-005 | 台湾における認知症の高齢者にかかるケアコストと介護者の負担の予測因子 リージュン・エリザベス・クー(Li-JungElizabethKu)(台湾) |
| 17:15-17:30 | O18-006 | 認知症の人をサポートするためにかかるインフォーマルなケアコストとその他の支払い: 日本での大量のサンプル調査におけるミクロレベルの決定要因 中部貴央(TakayoNakabe)(日本) |
| | | |
| 16:00-17:45 ルーム A | O19 | 地域社会への参加と連携 |
| 16:00-16:15 | O19-001 | 認知症の高齢者が気持ちよく参加できる社会活動についての実践に基づく報告: 「ラン伴+Aーシティ」及び「暇つぶし大学」から学んだこと 森安美(YasumiMori)(日本) |
| 16:15-16:30 | O19-002 | イランアルツハイマー協会が開催した希望者対象の年金受給者のための意欲的なトレーニングの開始 ファラネ・ファリン(FaranehFarin)(イラン) |
| 16:30-16:45 | O19-003 | 見えるものの具体化 ティナ・バター(TiinaButter)(フィンランド) |
| 16:45-17:00 | O19-004 | 「いきいき」の概念の新たな想像: 認知症の日系カナダ人と彼らの介護者をとりまくエージェンシー、家族そして地域社会の理解度の変化 小林カレン(KarenKobayashi)(カナダ) |
| 17:00-17:15 | O19-005 | 日本の若者とオーストラリアの高齢者間の WIN-WIN 文化交流-オーストラリア、パースの高齢者ケア施設にて- 横井静香(ShizukaYokoi)(オーストラリア) |
| 17:15-17:30 | O19-006 | アルツハイマー病の危険のあるアフリカ系アメリカ人高齢者向けの文化的な配慮のされた医学診断と生活習慣の改善プログラムを開発するためにまちづくりの ABCD モデルを登用 ジーナ・グリーンハリス(GinaGreen-Harris)(アメリカ) |
| | | |

| | | |
|---------------------------|---------|---|
| 16:00-17:45 アネックスホール 2 | O20 | セクシュアリティと認知症 |
| 16:00-16:15 | O20-001 | 滞在型高齢者ケアにおけるセクシュアリティのタブーの打破: 高齢者ケア施設の従業員と介護者の家族を支えるためのリソース マイケル・パウアー(Michael Bauer)(オーストラリア) |
| 16:15-16:30 | O20-002 | ケア施設での介護を受けることに支障があり在宅で療養する認知症の人の男性介護者 西尾美登里(Midori Nishio)(日本) |
| 16:30-16:45 | O20-003 | 認知症に影響を受けた関係における親密さと性的な感情表現 ジェーン・ユーエル(Jane Youell)(イギリス) |
| 16:45-17:00 | O20-004 | 「認知症は性欲とは関係がない、認知症になると性的感情を失う」: 介護施設スタッフの認知症におけるセクシュアリティについての役割と義務に関する体験談の理解 ツシュナ・バンドレバラ(Tushna Vandrevalla)(イギリス) |
| 17:15-17:30 | O20-006 | 寝室で何が起きているのか? ケイト・スワッファー(Kate Swaffer)(オーストラリア) |
| | | |
| 16:00-17:45 ルーム D | WO04 | 国際アルツハイマー協会(ADI) 認知症の人々と共に進む研究 |
| | | |
| 17:45-18:45 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム- 京都〈臨床美術〉をすすめる会 認知症の予防対策としての臨床美術セラピー |
| 17:45-18:45 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |

プログラムは変更になる可能性があります。

2017 年 4 月 29 日 (土)

| 時間/ルーム | セッションコード | タイトル |
|---------------------------|----------|--|
| 07:30-08:30 アネックスホール 1 | | スポンサードシンポジウム |
| 07:30-08:30 アネックスホール 2 | | スポンサードシンポジウム |
| | | |
| 08:45-09:00 大ホール | | 認知症にやさしい地域社会 |
| 09:00-10:30 大ホール | | 認知症にやさしい地域社会 |
| | | ナイジェリアがイギリスの「認知症フレンズ」プログラムの概要と資料を用いて認知症に常についてまわる汚名をいかに取り払っているかを知る。 キキ・エドワーズ(Kiki Edwards)(ナイジェリア) |
| | | イランアルツハイマー協会による 4500 人の小学生児童に向けた教育プロジェクト ファラネ・カボリ(Faraneh Kaboli)(イラン) |
| | | アルゼンチンの「A.L.M.A のあるカフェ」 ノエミ・メディナ(Noeimi Medina)(アルゼンチン) |
| | | 認知症について舞台演劇による州全体のキャンペーン ミーラ・パッタビラマン(Meera Pattabiraman)(インド) |
| | | ブリティッシュ・コロンビア(カナダ)の認知症にやさしい地域社会 マリア・ハワード(Maria Howard)(カナダ) |
| | | 認知症にやさしい地域社会への取り組み レジーナ・ショー/クリス・ロバーツ(Regina Shaw/Chris Roberts)(イギリス) |
| | | シンガポール、これまでの進展とプロジェクトチームが直面した課題について。 エニーとヤスミン(Eny and Yasmin)(シンガポール) |
| | | 橋本武也(Takaya Hashimoto) |

| | | |
|---------------------------|---------|--|
| | | 京都地域包括ケア推進機構 |
| | | 松永美根子(MinekoMatsunaga) 老人保健施設「孔子の里」副施設長 |
| | | |
| 10:30-11:00 | | 午前の休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| | | |
| 11:00-12:30 大ホール | O21 | 認知症における科学関連事項 |
| 11:00-11:15 | O21-001 | プロテインメタボリズムとアルツハイマー病の関係:高齢者コホートにおける長期にわたるプロテオーム解析をもとに ヴェール・バラ・グプタ(VeerBalaGupta)(オーストラリア) |
| 11:15-11:30 | O21-002 | アルツハイマー病の発症原因としての先天性免疫受容体の交差活性化 カジミール・ガシオロフスキ(KazimierzGasiorowski)(ポーランド) |
| 11:30-11:45 | O21-003 | 異なるタイプの認知症に合った投薬様式 シュユー・ヤン(Shu-YuYang)(台湾) |
| 11:45-12:00 | O21-004 | 認知症の人と介護者を力づける:ビッグデータと機械知能による救援? キエレン J.イガン KierenJ.Egan(イギリス) |
| 12:00-12:15 | O21-005 | フェルラ酸とセイヨウトウキの抽出物の軽度認知障害患者のアミロイド β 沈着に対する効果を調べる臨床研究 松山賢一(KenichiMatsuyama)(日本) |
| 12:15-12:30 | O21-006 | APOE-TOMM40 ハプロタイプとアルツハイマー病表現型 アレキサンダー・ヴォストロフ(AlexanderVostrov)(アメリカ) |
| | | |
| 11:00-12:30 AnnexHall1 | O22 | ParallelSession Carersupportandtraining |
| 11:00-11:15 | O22-001 | スロベニアのホームでの認知症の人との生活 メレディス・グresham(MeredithGresham)(オーストラリア) |
| 11:15-11:30 | O22-002 | アルツハイマー病患者というアダルトチルドレンによる支援グループにおける自己表現の感情 ランヒルド・ヘッドマン(RagnhildHedman)(スウェーデン) |
| 11:30-11:45 | O22-003 | 自宅で生活する:総合的で、インテンシブな介護者と認知症の人のための滞在型研修プログラム デービッド・クリヴェック DavidKrivec(スロベニア) |
| 11:45-12:00 | O22-004 | 介護者が介護の場所を決める:DECIDE 研究の定性的結果 キャスリン・ロード(KathrynLord)(イギリス) |
| 12:00-12:15 | O22-005 | ガーナにおいて認知症の人の介護をしている人が経験した影響 ベナンス・デイ(VenanceDey)(ガーナ) |
| 12:15-12:30 | O22-006 | フュージョンケア ケアの三角形の三つの面、つまり認知症の人、その家族、そして第三者の介護者を組み合わせたユニークな料理 デビ・イアハフ(Debilahav)(イスラエル) |
| | | |
| 11:00-12:30 アネックスホール 2 | O23 | リハビリテーションとその可能性 |
| 11:00-11:15 | O23-001 | 認知症ケアにおける対話の実現:作業療法における希望や願望を協働して探る。 渡辺涼子(RyokoWatanabe)(日本) |
| 11:15-11:30 | O23-002 | 認知症ケアにおける対話の実現:作業療法における希望や願望を協働して探る。 渡辺涼子(RyokoWatanabe)(日本) |
| 11:30-11:45 | O23-003 | アルツハイマーは私に生きるための多くのこと、そして私の家族に人生とは何か、そして人間とは何かについて教えてくれた。 小田貴代(TakayoOda)(日本) |
| 11:45-12:00 | O23-004 | 電動トイレ・便座とビデ:認知症の人と介護施設職員のためのトイレ事情の改善 スーザン・スチャン(SusanSuchan)(アメリカ) |
| 12:00-12:15 | O23-005 | 診断後:認知症になった場合のガイド |

| | | |
|---------------------------|---------|--|
| | | デニス・クレイグ (DeniseCraig)(オーストラリア) |
| 12:15-12:30 | O23-006 | 原発生進行性失語とつきあっていくための新しい言語を学ぶ。 メレディス・グresham (MeredithGresham)(オーストラリア) |
| | | |
| 11:00-12:30 ルーム A | O24 | 認知症の人との関わり |
| 11:00-11:15 | O24-001 | ローズマリー、私の考えと心を綴った日記 アンドレア・ファッボ(AndreaFabbo)(イタリア) |
| 11:15-11:30 | O24-002 | 民間のゲーム技術を用いたイニシアチブで認知症の高齢男性の社会参加を促す ベン・ヒックス(BenHicks)(イギリス) |
| 11:30-11:45 | O24-003 | 認知症のための犬-認知症と介護者を支援する役目を身体障害者補助犬が果たす オーストラリアで初のイニシアチブに注目 ジャニン・マクドナルド(JanineMacDonald)(オーストラリア) |
| 11:45-12:00 | O24-004 | 日本の変化-外からの視点 クリスティン・ブライドン(ChristineBryden)(オーストラリア) |
| 12:00-12:15 | O24-005 | 5つの会話型ディスプレイがスコットランドの田舎の高地地方全体を通してどのように 認知症の家族を支えたかについて スティーブン・ヘンダーソン(StevenHenderson)(イギリス) |
| 12:15-12:30 | O24-006 | 認知症とともに生きる- 認知症の人の声を認知症の人たちによって広める 丹野智文(TomofumiTanno)(日本) |
| | | |
| 11:00-12:30 ルーム B1 | O25 | 人生の最後 |
| 11:00-11:15 | O25-001 | 認知症の影響を受けた夫婦にとってケア計画を進めるのが困難な理由: 質的研究 トニー・ライアン(TonyRyan)(イギリス) |
| 11:15-11:30 | O25-002 | 重度の認知症における尊厳(DIADDEM)に関する研究: 統合された老人病の在宅緩和 医療ケアプログラム アリン・ハム(AllynHum)(シンガポール) |
| 11:30-11:45 | O25-003 | 緩和と死ぬ瞬間 認知症の人のために考慮すべきこと ピーター・バーワート(PeterBewert)(オーストラリア) |
| 11:45-12:00 | O25-004 | アートとアルツハイマー病と共に生きた彼女の最後の日々 長崎のぞみ(NozomiNagasaki)(日本) |
| 12:00-12:15 | O25-005 | 滞在している認知症の人に人生の最後のケアを提供するケア施設職人の仕事とし ての境界を維持することの難しさ ツシュナ・ヴァンドレバール(TushnaVandrevale)(イギリス) |
| 12:15-12:30 | O25-006 | 認知症の高齢者の「胃ろう」造設に対する反応 新里和宏(KazuhiroNiizato)(日本) |
| | | |
| 11:00-12:30 ルーム D | WO05 | 認知症にやさしい日本イニシアチブ(DFJI)公益社団法人認知症の人と家族の会 (AAJ)と世界の認知症における若いリーダーのグループ(WYLD) 認知症にやさしい地域社会のアセスメント: 各地域社会の認知症に対するやさしさを 評価し、促進させる方法 |
| | | |
| 12:30-14:00 | | 昼食休憩(展示資料・ポスター閲覧) |
| | | |
| 13:00-14:00 AnnexHall1 | | スポンサードシンポジウム |
| 13:00-14:00 AnnexHall2 | | スポンサードシンポジウム |
| | | |
| 14:00-15:30 MainHall | | 若年性認知症 |
| 14:00-14:30 | PL13 | 若年性認知症: 日本のアプローチ 新井平伊 Prof.HeiiArai(Japan)(日本) |

| | | |
|---------------------|------|--|
| | | 芦野れい子(ReikoAshino)(日本) |
| 14:30-15:00 | PL14 | 若年性認知症:多様な障害、多様なケア エイドリアン・ウィットホール Dr.AdrienneWithall(Australia) (オーストラリア) |
| 14:00-15:30 | PL15 | 優性遺伝のアルツハイマーネットワークにおける若年性の研究の概要 ランドール・ベイトマン Dr.RandallBateman(USA) (アメリカ) |
| | | |
| 15:30-16:00 大ホール | | 閉会式 |

プログラムは変更になる可能性があります。

ポスターセッション

イベントホールでは、ポスターによる発表が行われます。発表数が多いため、前半(26 日 16:00～18:00、27 日 7:00～17:30)と後半(28 日 8:30～17:30、29 日 8:30～14:30)の2回に分けられ展示が行われます。
タイトルについては、現在翻訳中です。もうしばらくお待ちください。

Poster Presentation 1

前半(26 日 16:00～18:00、27 日 7:00～17:30)

| 認識と誤解 | |
|------------------|---|
| PO1-002 | バングラデシュにおける認知症の認識 ラシェッド・スラワーディ(Md Rashed Suhrawardy) (バングラデシュ) |
| PO1-003 | 31音からなる日本の詩である「和歌」は彼の晩年の精神的支えであった。 西口 和代 (Kazuyo Nishiguchi) (日本) |
| PO1-004 | 認知症の自分より年上の親戚がいる思春期の子供のための経験、認識とサポート クリスティン・ニューマン (Kristine Newman) (カナダ) |
| PO1-005 | マレーシア、ペナンでの認知症啓蒙活動 リー・リー・チェン (Li Li Chen) (マレーシア) |
| PO1-006 | 認知症の理解を高める - プロジェクト「認知症の人たちと踊るー一緒に踊ろう」のレポート 三宅 真理 (Mari Miyake) (日本) |
| PO1-008 | 世界認知症プロジェクト - 世界の認知症を写真で追う レア・ビーチ (Leah Beach) (アメリカ) |
| PO1-009 | 6歳の子供に認知症をどう説明するか? アリー・パリー・ビープロジェクトが個々の子供達に送る認知症についての児童書。 マシュー・アダムス (Matthew Adams) (イギリス) |
| PO1-012 | サブサハラアフリカ地域で認知症の認識と知識を高める。ガーナでの認識セッションの結果。 スザンヌ・スピッテル (Susanne Spittel) (ドイツ) |
| PO1-013 | 認知症キャンペーンのストーリーと声: 今後のモデル構築 イリナ・ハーパラ (Irja Haapala) (オーストラリア) |
| | |
| 提携と協力関係の構築 | |
| PO1-014 | 英国メモリーサービス国家認定プログラム (MSNAP) エマ・コップランド (Emma Copland) (イギリス) |
| PO1-015 | アテネアルツハイマー病及び関連障害協会 (AAADRD): 地域社会でのネットワーキング パトラ・ブレコウ (Patra Blekou) (ギリシャ) |
| PO1-016 | ノルウェー保険協会の認知症研究プログラム シリ・ホーヴ・エグゲン (Siri Hov Eggen) (ノルウェー) |
| PO1-017 | 看護婦や介護職といった長期の高齢者介護を提供する政府の補助を受けた施設で働く従業員の維持のために必然的な職場環境の要素 緒方 明美 (Akemi Ogata) (日本) |
| PO1-018 | 認知症に世界的に向き合う重要性 フィリッパ・ツリー (Philippa Tree) (イギリス) |
| PO1-019 | 認知症に対して行動を起こす市民社会の力を利用する エイミー・リトル (Amy Little) (イギリス) |
| | |
| 認知症にやさしい地域社会 - 1 | |
| PO1-020 | 長野県駒ヶ根市の統合コミュニティケア (オレンジネット AAJ) の活動 山西 桂子 (Keiko Yamanishi) (日本) |
| PO1-021 | 湘南オレンジプラン - 日本の神奈川県での認知症にやさしい地域社会 太田 和美 (Kazumi Ota) (日本) |
| PO1-022 | 認知症にやさしい地域社会: イタリア、アビアテグラッソの経験 ダニエラ・ザッカリア (Daniele Zaccaria) (イタリア) |
| PO1-023 | 楽しく学習できる認知症の育成アプローチプログラムの検討 |

| | |
|------------|---|
| | 増田 聖子 (Seiko Masuda) (日本) |
| PO1-024 | SDA 教会での認知症に関する地域社会ベースのケア クアンホン・リン (Kuanhung Lin) (台湾) |
| PO1-025 | 老人を敬い気遣おう - ナイジェリアとケアの土壌 キケロモ・エドワーズ (Kikelomo Edwards) (ナイジェリア) |
| PO1-026 | 認知症にやさしい地域社会 - 私たちは同じ理解をしているか? 先進国と途上国を通したモデルの主題分析 C.T. スディール・クマール (C T Sudhir Kumar) (インド) |
| PO1-027 | 漫画やゲームを使ったショッピング施設での認知症認識活動: 家族の介護者、作業療法士、その他の職業につく人々の協力とともに 長谷川 和之 (Kazuyuki Hasegawa) (日本) |
| PO1-028 | もっと歩いて違いを感じよう - 認知症にやさしい地域社会のためにスコットランドの健康グループのウォーキングを支援 カール・グリーンウッド (Carl Greenwood) (イギリス) |
| PO1-029 | タウンスクエア、国際的なモデル: 認知症にやさしい 1950 年代アーバングラウドプログラム環境を体験できるレプリカのデザイン スコット・タード (Scott Tarde) (アメリカ) |
| PO1-030 | 小さな中学生のサポーター達 田中 克博 (Katsuhiro Tanaka) (日本) |
| PO1-031 | アルツハイマー社会の認知症にやさしい地域社会: 意義のある社会の変革の創造 エマ・ボールド (Emma Bould) (イギリス) |
| PO1-032 | 熊本地震での認知症の男性 豊田 健二 (Kenji Toyota) (日本) |
| PO1-033 | GP プラクティスのために認知症にやさしいツールキット ダイアン・スミス (Diane Smith) (イギリス) |
| PO1-034 | コスタリカで初の介護者施設と認知症にやさしい街での体験 ノーベル・ガリタ・ローマン (Norbel GARITA Roman) (コスタリカ) |
| | |
| 認知症の友人と支援者 | |
| PO1-036 | 聞き書き - プライベートな口頭の歴史 PRIVATE ORAL HISTORY. 神崎 道子 (Michiko Kanzaki) (日本) |
| PO1-037 | 「認知症の人とその家族」のための電話サポートシステムの役割 尾崎 善規 (Yoshinori Ozaki) (日本) |
| PO1-038 | 認知症高齢者の自助グループの研究: 認知症の人と家族の会の県連による活動から 福崎 千鶴 (Chizuru Fukuzaki) (日本) |
| PO1-039 | 認知症高齢者の自助グループの研究: 認知症の人と家族の会の県連による活動から 福崎 千鶴 (Chizuru Fukuzaki) (日本) |
| PO1-040 | フィンランドのラップランドにおける遠隔環境のための認知症ボランティア活動モデル ニーナ・シイラ-クオクサ (Nina Siira-Kuoksa) (フィンランド) |
| | |
| 認知症政策 | |
| PO1-041 | 韓国の認知症指数(KDI)を使った韓国認知症と向き合っていく道のり(KDCOP)の評価 キム・ギウン (Kim Ki Woong) (韓国) |
| PO1-043 | 認知症の人がケアされている場所を抜け出しなくなってしまう場合に医療機関職員、家族そして緊急サービスのとるべき行動とは。事例からの教訓を学ぶ。 ジャクリン・フェアバーン・プラット (Jacqueline Fairbairn Platt) (イギリス) |
| PO1-044 | 日本の職員のための認知症に関する訓練と教育 遠藤 英俊 (Hidetoshi Endo) (日本) |
| PO1-045 | 認知症の恐怖: 啓蒙活動、審査と診断が引き起こす結果 ジョージナ・チャールズワース (Georgina Charlesworth) (イギリス) |
| PO1-047 | 認知症で行方不明になっている人のための政府主導プログラムの紹介 ヒンスン・チョー (Hyunsung Cho) (韓国) |
| PO1-048 | イギリスで人々が参加しやすいよう改善された認知症調査への参加 アダム・スミス (Adam Smith) (United Kingdom) |
| PO1-049 | 生駒市と医療機関の間で行われた認知症政策についての協働 田中 明美 (Akemi Tanaka) (日本) |
| PO1-050 | 韓国認知症管理通達システム ヨンキュン・ジュン (Yoonkyung Jung) (韓国) |
| PO1-051 | アルツハイマーの社会 - 認知症の影響を受けた人との効果的な関わり方や権利の主張 ギャバン・テリー (Gavin Terry) (イギリス) |
| PO1-052 | 介護者のチャーターを作成: 認知症の人と家族の会愛知支部の提案する介護者の行動規定 尾之内 直美 (Naomi Onouchi) (日本) |
| | |
| 診断と画像診断 | |
| PO1-042 | 認知症診断質問票の作成と実用 家庭医学の領域において～地域での審査、ロボット技術に応用～ 高瀬 義昌 (Yoshimasa Takase) (日本) |
| PO1-053 | 地域によって異なる認知障害患者の診断 レザル・カンドカー (Rezaul Khandker) (アメリカ) |
| PO1-054 | 香港での Addenbrooke's Cognitive Examination III (HK-ACE-III)の香港版に関する検証試験 チョー・ユン (Cho Yiu Yung) (香港) |
| PO1-055 | 虚血性脳梗塞の患者の大脳白質の変化に関連する複数の保護要素の分析のための多因子次元削減 |

| | |
|-----------|--|
| | シージョン・ウー (Shyh-Jong Wu) (台湾) |
| PO1-056 | アミロイド負荷への APOE4 の効果と認知障害における臨床所見 ドン・ウォン・ヤン (Dong Won Yang) (韓国) |
| PO1-057 | 主観的な認知低下の患者に見られる典型的な記憶認識 スンヒー・ナ (Seunghye Na) (韓国) |
| PO1-058 | 認知スコアが低いアルツハイマー病患者ほど治療を依頼するまでにより多くの時間を費やしている レザル・カンドカー (Rezaul Khandker) (アメリカ) |
| PO1-059 | 韓国でアルツハイマー病の診断に対する脳脊髄液のバイオマーカーの効用 ジヨン・イム (Jiyoung Im) (韓国) |
| PO1-061 | 南台湾での認知障害のある高齢者を対象とした探索的試験 リーチャン・リン (Lichuan Lin) (台湾) |
| PO1-062 | ブーケットのバンコク病院での脳の容積と認識機能間の相関関係に関する縦断的研究 カンヤ・テンキアトバイス (Kanya temkiatvises) (タイ) |
| PO1-063 | 凝集誘起発光を元にしたアルツハイマー病アミロイド B の容易な定量化 星川 たかや (Takaya Hoshikawa) (日本) |
| 早期介入 | |
| PO1-064 | 認知症の人のための診断が遅れる要因とプライマリ・ケアにおける介入 遠矢 純一郎 (Junichiro Toya) (日本) |
| PO1-065 | 認知症相談センターサービスを継続利用を促進する要因: 一度だけの利用者と継続利用者の比較 山下 真里 (Mari Yamashita) (日本) |
| PO1-066 | 軽度認知障害のある高齢者の脳の認知能力を短期間で訓練する効果 チアリアン・ツァイ (Chia-Liang Tsai) (台湾) |
| PO1-067 | 軽度認知障害にはサフランと認知トレーニング。どちらがより効果的? エリーニ・ポプチ (Eleni Poptsi) (ギリシャ) |
| PO1-068 | ジメチグリシン(DMG)、クレアチン、ビタミン B1, B6, B12 およびビタミン C の組み合わせ: 初期の認知障害分野の認知機能への効能 パトリツィア・ブルーノ (Patrizia Bruno) (イタリア) |
| PO1-069 | アルツハイマー病の人にメンタルマップを使用する可能性 ニノスラフ・ミミカ (Ninoslav Mimica) (クロアチア) |
| 介護職の教育と研修 | |
| PO1-070 | 文化的、言語的に多様な背景から来る人々: 認知症行動マネジメント助言サービスのビクトリアへの紹介と彼らからの返答: 研修、サービス 規定と法令遵守への影響 カレン・トード (Karen Thode) (オーストラリア) |
| PO1-071 | 職員を通して滞在型認知症ケアを改善する: 証拠の構造的な見直し カトリーナ・アンダーソン (Katrina Anderson) (オーストラリア) |
| PO1-072 | 教育と研修と通じたケアの質の向上: 高齢者ケア職員が滞在者の健康状態の変化の確認、認識及び報告をするためのキャパシティを向上 できるような二つの教育プログラムの開発 マイケル・パウアー (Michael Bauer) (オーストラリア) |
| PO1-073 | 認知症の人のためのケアの質を向上するために看護婦ができる行動: 看護婦の行動プロセスと看護婦が見ている認知症の人の願い 中筋 佳子 (Yoshiko Nakasuji) (日本) |
| PO1-074 | 認知症の人のグループホーム管理者が直面した新しい介護ケア職員の教育の難しさ 古村 美津代 (Michiyo Furumura) (日本) |
| PO1-075 | 認知症学習行動グループ - ティア1 認知症認識トレーニング、デザイン、デリバリー、評価と継続性 ジェーン・ユーエル (Jane Youell) (イギリス) |
| PO1-076 | 認知症の人が患う苦痛についての知識と信条に関する質問票の台湾での検証 ペイチャオ・リン (Pei-Chao Lin) (台湾) |
| PO1-077 | 地域社会のケア提供者のために認知症クリニックにおける健康相談の観察を直接体験してもらう メイ・リン・ラウ (Mei Ling Lau) (香港) |
| PO1-078 | 高齢者ケアの他職種連携教育 (IPEAC) - 職員が職種間で学生を配置できるように支援 ジェーン・ハラップ・グレゴリー (Jane Harrup-Gregory) (オーストラリア) |
| PO1-079 | イギリス・テムズバレーで使われているティア1 認知症トレーニングのデザイン、デリバリーと効果 ピーター・ザーグマン (Peter Zaagman) (イギリス) |
| PO1-080 | 診断後のサポート担当職員の育成 ジャン・ビアッティエ (Jan Beattie) (イギリス) |
| PO1-081 | 大規模な自然災害発生時の避難所における認知症高齢者のケア: 教育資料とプログラムの開発 松岡 千代 (Chiyo Matsuoka) (日本) |
| PO1-082 | 認知症の学位: 認知症に関する技能を構築するために教育を本質的な介入として位置付ける リネット・ゴールドバーグ (Lynette Goldberg) (オーストラリア) |
| PO1-083 | 病院の看護婦が認識する認知症看護ケアの大切さを構成する因子 池上 千賀子 (Chikako Ikegami) (日本) |
| PO1-084 | 高齢者ケアと看護に関する社会の歴史 有賀 智也 (Tomoya Ariga) (日本) |
| PO1-085 | 介護ホームの認知症高齢者に向けたケアプランの問題 - 研修学生によるケアの手順から 広瀬 美千代 (Michiyo Hirose) (日本) |
| PO1-086 | 認知症ケアの提供と受領における文化の交差: 文学のレビュー ジョアン・ブルック (Joanne Brooke) (イギリス) |
| PO1-087 | よりよいケアのために医療関係者と研修者を対象とした世界の認知症に関する知識と教育ニーズを測定: 開発、展開と確認済みの異文化 |

| | |
|--------------|--|
| | スケールを用いて測定された結果 マイケル・アニア (Michael Annear) (オーストラリア) |
| PO1-088 | よりよい認知症ケアのための他職種間医療教育: 日本とオーストラリアにおける協働体制の整備と参加への障壁 マイケル・アニア (Michael Annear) (オーストラリア) |
| PO1-089 | メキシコにおける抗精神病薬の使用の削減と心理社会的な解決策を導入するための職員研修プログラム実施の可能性調査のプロセス評価: 初の国レベルの調査からの質的データ アズセナ・グズマン (Azucena Guzman) (イギリス) |
| PO1-090 | 日本での認知症高齢者のために共同生活で日常生活のケアを行なう認定介護者のための職場での研修システムと重度の認知症の高齢者の認知症ケアの実情との関連性 佐藤 ゆかり (Yukari Sato) (日本) |
| PO1-091 | 医療関係者による認知症の高齢者のためのケアにおける高齢者疑似体験の効果 山本 美和 (Miwa Yamamoto) (日本) |
| PO1-092 | 認知症の人と介護者と共に楽しく会話をしながらできる桌上ゲームをなぜ、どのように開発したか。自分や他人が安全でいられるとどうなるか、そしてゲームをすると何がおこるかについて。 マギー・ベネット (Maggie Bennett) (イギリス) |
| PO1-093 | 看護大学プログラムの教育に「困難な道に送る言葉」を適用 太田 喜久子 (Kikuko Ota) (日本) |
| PO1-094 | バカロレア提携看護学位プログラムにおけるオンラインの認知症専門教育改革の評価 クリスティン・ニューマン (Kristine Newman) (カナダ) |
| PO1-095 | DCRC: 認知症の行動的及び心理的な症状に対応する医療関係者と家族のための新しいサポート (BPSD). ヘンリー・ブロダティ (Henry Brodaty) (オーストラリア) |
| PO1-096 | 認知症の人の家族と対話する医療ケアの教育者としての能力の強化 ヒューイリン・フアン (Huei-Ling Huang) (台湾) |
| PO1-097 | 介護ホームでの人を第一に考えた認知症ケアを提供するための看護婦の支援 ムルナ・ダウンズ (Murna Downs) (イギリス) |
| PO1-098 | 長期施設で高度認知症における苦痛のアセスメント (PAINAD-C) の尺度の中国版を使うことの有効性 ペイチャオ・リン (Pei-Chao Lin) (台湾) |
| PO1-099 | 認知症の環境における有効なリーダーシップ能力の開発 マイケル・ダラー (Michael Darragh) (オーストラリア) |
| PO1-100 | 台湾での緊急病室の看護婦の認知症ケアに関する知識 メイホイ・シー (Mei-Hui Hsieh) (台湾) |
| PO1-101 | 英語のカリキュラムに認知症ケアが必要な理由。救急救命士の大学生のケース。 キャスリン・ロード (Kathryn Lord) (イギリス) |
| PO1-102 | 認知症看護を学ぶ経験の長い看護婦の課題: 看護教育者とのインタビュー 湯浅美千代 (Michiyo Yuasa) (日本) |
| PO1-103 | 高齢者ケア施設における新規雇用の看護婦のための看護技能を強化する教育支援方法 - 認知症高齢者の高齢症状に対する技能の強化 長谷川 道子 (Michiko Hasegawa) (日本) |
| 認知症の人と介護者の参加 | |
| PO1-104 | 認知症の人とその家族のための小さなグループミーティングの事後診断 久門 綾 (Aya Kumon) (日本) |
| 環境とデザイン | |
| PO1-105 | 認知症の人のために作られたユニットケアの環境で生み出された人生の特性と便益の研究: 南台湾の高齢者センターLIN のケーススタディ H. リン (H. Lin) (中国) |
| PO1-106 | 南台湾の VA システムに属するグループホームの建築復興計画 ツン I リン (Tsung I Lin) (台湾) |
| PO1-107 | アルツハイマー病のセラピーとしてのガーデニング マリア・モグラン (Maria Moglan) (ルーマニア) |
| PO1-108 | メタファーとしての物質的環境: 認知症の人の健康を強化 フイ・レン (Hui Ren) (カナダ) |
| PO1-109 | 認知症のための小規模で多機能の福祉施設計画とデザイン原則の調査 - 南台湾 Qieding 地域の福祉施設のケーススタディ ポーツン・チェン (Po-Tsung Chen) (台湾) |
| PO1-110 | 方法を示す: 認知症の人のための表示に使う評価的なフレームワークの開発 メレディス・グresham (Meredith Gresham) (オーストラリア) |
| PO1-111 | 一人で住む認知症の高齢者のための自宅環境の改良に関する研究 大島 千帆 (Chiho Oshima) (日本) |
| PO1-112 | 継続が必要なケアという視点からの認知症のためのケア環境計画とデザインの調査: 南台湾のダリン町にあるアンナ介護ホームのケーススタディ ポーツン・チェン (Po-Tsung Chen) (台湾) |
| 遺伝学 | |
| PO1-113 | アルツハイマー病のバイオマーカーとしての末梢血ミクロンの発生 ヘレン・ウー (Helen Wu) (オーストラリア) |
| 健康的な加齢 | |

| | |
|---------|--|
| PO1-114 | 忠南地方認知症センター（CUPID）の高齢者向け雑誌「DAON」 ミー・スン・カン（Mi Sun Kang）（韓国） |
| PO1-115 | デイケアサービスを受けている認知障害のある高齢者に見られる筋肉減少症に関係する要因 七戸 省吾（Shogo Shichinohe）（日本） |
| PO1-116 | 認知力減少が見られる高齢者デイケア滞在者の睡眠パターン 古村 智子（Tomoko Komura）（日本） |
| PO1-117 | 認知症になるリスクを減らすメッセージを「中年」を迎えている人々にまで広げる ドミニク・カーター（Dominic Carter）（イギリス） |
| PO1-118 | 一人で住む認知症のある高齢者人口の人生の満足度、彼らが受けているサポートとの関わり、そして彼らの社会参加 沖中 由美（Yumi Okinaka）（日本） |
| PO1-119 | 高齢人口における地域参加のための「ABCD」ツールキット ウェン・ムーイ・タン（Weng Mooi Tan）（シンガポール） |
| PO1-120 | アルツハイマー型認知症のある日本人患者の味覚検出と認識閾 小川 孝雄（Takao Ogawa）（日本） |
| PO1-121 | 高齢者の社会参加：認知症予防のための機会としてのホームヘルス看護練習 屋根 明子（Akiko Yane）（日本） |
| PO1-122 | 地域に住む高齢者のためのエクササイズ教室を使った遠隔フィットネスシステムの長所 田中 春菜（Haruna Tanaka）（日本） |
| ケアモデル | |
| PO1-123 | 慢性心不全の老化を伴う認知症患者のケアの状況における看護援助プロトコルの草案の改訂 大津 美香（Mika Otsu）（日本） |
| PO1-124 | 認知症の人にケアを提供することに対する文化的正当性の認識：日本における体系的レビュー 松本 啓子（Keiko Matsumoto）（日本） |
| PO1-126 | 高齢で股関節を骨折した認知症の人と介護をする家族のためのケアモデル Yea-Ing Shyu（台湾） |
| PO1-127 | 滞施設にいる認知症の人の痛みからくる行動を軽減するための逐次の介入処置（STI）の実施 イー・ヘン・チェン（Yi Heng Chen）（台湾） |
| PO1-128 | 認知レベルに合ったアクティビティケアのモデル 久野 真也（Shinya Hisano）（日本） |
| PO1-129 | 介護ホームに住む認知症の人をケアすると同時に気遣いの雰囲気をも高める - 職員の視点 モナ・ソーダーランド（Mona Söderlund）（スウェーデン） |
| 非薬物的介入 | |
| PO1-130 | 認知症の行動的及び心理的症状（BPSD）にエッセンシャルオイルの使用 - レビュー シュバシニ・グナナサン（Shubashini Gnanasan）（マレーシア） |
| PO1-131 | 写真講座、高齢者のための戸外での撮影活動 - 写真を使って脳に刺激を（クローズアップ） ユン・ジュ・ジェオン（Yun Ju Jeong）（韓国） |
| PO1-132 | 認知刺激療法（CST）の神経心理学的理解 ティアンイン・リウ（Tianyin Liu）（香港） |
| PO1-133 | 高齢の認知症の人のための多様なセラピーの実践 芹澤 貴子（Takako Serizawa）（日本） |
| PO1-134 | 認知症の人や介護者を心理社会的な取り組みや商品、サービスの評価に参加してもらう：デイケアセンターにおける生きたラボの導入 ケビン・シャラス（Kevin Charras）（フランス） |
| PO1-135 | 高齢の認知症患者のためのグループミュージック両方の検討 呉竹 仁志（Hitoshi Kuretake）（日本） |
| PO1-136 | 日本のグループホームにおける認知症高齢者と職員で取り組むセラピー的料理の効果 明神 千穂（Chiho Myojin）（日本） |
| PO1-137 | 台湾における認知症の行動的及び心理的症状（BPSD）の継続教育プログラムの探求 ウェンユン・チェン（Wenyun Cheng）（台湾） |
| PO1-138 | 台湾のデイケアセンターにおける認知症高齢者のためのグループ回想セラピーの効果 フイ・チェン（リタ）チャン（Hui Chen (Rita) Chang）（台湾） |
| PO1-139 | 認知症の人が光を調整した環境で目的のある活動を行う効果 フアン・ジュ・チー（Huang-Ju Chi）（台湾） |
| PO1-140 | デュギンブレインフィットネス（頭筋を使った脳のエクササイズ）：認知症予防のための新聞を用いた認知トレーニング キウォン・キム（Kiwon Kim）（韓国） |
| PO1-141 | 認知症高齢者の日課としての園芸の効果 - 日本の小規模な多機能ケア施設における家のような生活を支援する実用的なケア 寺岡 佐和（Sawa Taraoka）（日本） |
| PO1-142 | 介護ホームにおける軽度認知障害高齢者の間でのアドバンス・ケア・プランニングの効果 シー・ティン・フアン（Sih-Ting Huang）（台湾） |
| PO1-143 | 台湾における非薬物的療法の導入：レクリエーション・アクティビティ・オフィサー（RAO）という役割を新たに設置 フイ・ウェン・チェン（Hui-Wen Chien）（台湾） |
| PO1-144 | 老人ホームでの高齢者の認知機能と気分を向上させる認知能力トレーニング イー・ルー・リアン（Yi-Ru Liang）（台湾） |
| PO1-145 | 老人ホームに滞在する高齢者のための認知機能と機能的なフィットネスを強化する革新的な抵抗エクササイズの DVD：任意抽出の制御された試み ヒューイ・チュアン・スン（Huei-Chuan Sung）（台湾） |
| PO1-146 | GYMSEN - 高齢者向けの感覚体操：プログラム詳細と初期データ |

| | |
|----------------------|---|
| | エリニ・マルギオティ (Eleni Margioti) (ギリシャ) |
| PO1-147 | アルツハイマー型認知症に伴う高齢者の慢性的な痛みに対する非薬物的療法の効果 辻本祐樹 (Yuko Tsujimoto) (日本) |
| PO1-148 | 救急病院における認知障害のある人のための有意義な活動の効果: 文学レビュー モニカ・リバック (Monika Rybacka) (イギリス) |
| PO1-149 | 認知症の人のための音楽療法 今江 敦子 (Atsuko Imae) (日本) |
| PO1-150 | 早期認知症患者とその家族のための意思決定を支援するビデオを用いたエスノグラフィー 小野塚 元子 (Motoko Onozuka) (日本) |
| PO1-151 | 認知症の人に「公園まで散歩」プログラム 伊東 美緒 (Mio Ito) (日本) |
| PO1-152 | 回想プログラムの認知症高齢者の認知機能への効果 ラチャダポーン・ホントン (Ratchadaporn Hongtong) (タイ) |
| PO1-153 | 非薬物的介入 - 五感を刺激し BPSD を抑える アリソン・バーク (Allison Bourke) (China) |
| PO1-154 | 意思伝達ロボットの軽度障害を持つ高齢者の行動的及び心理的症状に対する効果の予備的調査 藤田 昭人 (Akihito Fujita) (日本) |
| PO1-155 | 認知症におけるの独立を進めるための認知症アドバイザー研修プログラムの開発 フォン・レング (Phuong Leung) (イギリス) |
| PO1-156 | 台湾における認知症の行動的及び心理的症状 (BPSD) に対する非薬物的ケアの発見 ウェンユン・チェン (Wenyun Cheng) (台湾) |
| PO1-157 | 生け花療法: 実用的な導入と効果の分析。2万5千人の認知症高齢者の事例からの学び。 浜崎 英子 (Eiko Hamasaki) (日本) |
| PO1-158 | 認知症の人とその介護をしている家族の個人認知刺激セラピー体験 フォン・レング (Phuong Leung) (イギリス) |
| PO1-159 | タッチケアマッサージが認知症高齢者の心理的及び精神的な状態に与える影響 外村 昌子 (Masako Sotomura) (日本) |
| PO1-160 | 軽度認知症の人のためのライフスタイルの再建と自己管理グループのプログラム設計とその効果 ユーシェン・チェン (Yu-Sheng Cheng) (台湾) |
| PO1-161 | 悪臭がアルツハイマー病における昔の記憶の回復にもたらす効果 デジレー・ロピス (Desirée Lapis) (フランス) |
| PO1-162 | アロマセラピーからヨガまで: 認知症ケアにおける補助的または代替療法の探求 スーザン・ランザ (Susan Lanza) (アメリカ) |
| PO1-163 | 研究の促進: 現実のための研究 ジョン・クイン (John Quinn) (オーストラリア) |
| パーソン・センタード・ケア | |
| PO1-164 | 認知症以外の治療目的で入院した認知症高齢者の実情 - 家族の立場から見た現実 鍋野 杏奈 (Anna Nabeno) (日本) |
| PO1-165 | 認知症の支援者と対象とした日本語の DVD 教材を使った地域社会でパーソン・センタード・ケアを促進するためのアプローチ 村田 康子 (Yasuko Murata) (日本) |
| PO1-166 | 人の生き方に焦点をあてた認知症のケア 福田 涼子 (Ryoko Fukuda) (日本) |
| PO1-167 | 認知障害のある地域に住む人の問題のある歩行動作の背景と近位の要因 イーチェン・チウ (Yi-Chen Chiu) (台湾) |
| PO1-168 | 台湾における認知症の行動的及び心理的症状(BPSD)に対する看護の観念の識別 ウェンユン・チェン (Wenyun Cheng) (台湾) |
| PO1-169 | 日本の認知症の人に対する緩和ケアと専門家の連携によるケアに関する文献のレビュー 関戸 恵子 (Keiko Sekido) (日本) |
| PO1-170 | 認知症ケアにおけるベストプラクティスの研修は医療スタッフの仕事の満足度と技能の向上につながった ティモシー・クウォック (Timothy Kwok) (香港) |
| PO1-171 | 老人介護ホームにおける認知症ケアの質に繋がる要因: パーソン・センタード・ケアのための VIPS フレームワークの適用 伊藤 美智子 (Michiyo Ito) (日本) |
| PO1-172 | そばによりそうパーソン・センタード・アプローチでの支援 ゾーイ・キャンベル (Zoe Campbell) (イギリス) |
| PO1-173 | 自分の本質: 緊急病院環境で認知症の診断だけでは見えないものを見る ミーガン・ハートリー (Meagan Hartley) (オーストラリア) |
| PO1-174 | 「非常に難しいが、前進するしかない。」認知症の人とその介護者の投薬の問題を探る ダラル・アルサイド (Dalal Alsaed) (イギリス) |
| PO1-175 | 滞在型ケアホームに住む認知症の人のためにパーソン・センタード・ケアを促進するための調査研究 ヘレン・ユエライ・チャン (Helen Yue-lai Chan) (香港) |
| PO1-176 | ホームケアサービスと介護ホームに関する優れたケアの条件と生活のワークブック アニタ・ボージャンプオリ (Anita Pohjanvuori) (フィンランド) |
| PO1-177 | 認知症に関連する精神心理的な症状のあるパートナーをもつ配偶者の声 マリー・ティレル (Marie Tyrrell) (スウェーデン) |
| PO1-178 | 認知症の人のためのセラピーとしての仕事: 滞在型ケアという設定における健康と意味合い Petrina Goh Yinglin (シンガポール) |
| PO1-179 | 認知症の人とその家族のための認知症ケアにおけるトランジションの改善: 概念的な分析 |

| | |
|----------------|--|
| | ムルナ・ダウンズ (Murna Downs) (イギリス) |
| PO1-180 | 日常生活におけるケア施設の利用法としての選択式サポートの意義 中谷 こずえ (Kozue Nakatani) (日本) |
| PO1-182 | 長期にわたる認知症の人を支える家族が考える適切な病院環境とは 河内 よしみ (Yoshimi Kawachi) (日本) |
| PO1-183 | 台湾において独立した高齢者支援生活医療機関として発展してきた経験の実話 ルオリー・レイ (Ruoh-Lih Lei) (台湾) |
| PO1-184 | 証拠をもとに: 認知症居住者の行動障害のためのパーソン・センタード・ケア環境 ヤーチー・フアン (Ya-Chi Huang) (台湾) |
| PO1-185 | 若年性認知症の人が持つ攻撃性を抑えるための混合モデルフレームワークの開発: ケーススタディ ヤーフイ・ワン (Ya-Hui Wang) (台湾) |
| PO1-186 | 日本の認知症の人と家族の介護者を支える文献のレビュー 関戸 恵子 (Keiko Sekido) (日本) |
| PO1-187 | 医療の分野において認知症高齢者の身体の不自由について家族が考える実態 中川 みどり (Midori Nakagawa) (日本) |
| PO1-188 | 看護婦の BPSD に関する理解 (認知症の行動的及び心理的症状) 濱畑 章子 (Akiko Hamahata) (日本) |
| 政策的イニシアチブ | |
| PO1-189 | 認知症に関するロシアの展望 リユーボフ・ピシュチコバ (Liubov Pishchikova) (ロシア) |
| 信仰とスピリチュアリティ | |
| PO1-190 | 認知症、スピリチュアリティと健康 ケーススタディ ピーター・バーワート (Peter Bewert) (オーストラリア) |
| PO1-191 | 認知症に仏教寺院を利用するアイデア 加茂 順成 (Junjo Kamo) (日本) |
| 認知症の人の人権 | |
| PO1-192 | 私には人生を楽しむ権利があります！本当にそうです。 国連が身体障害者の人権として掲げている慣例の適用 マリー・ラドノフスキー (Mary Radnofsky) (アメリカ) |
| 発症リスクの軽減とリスク因子 | |
| PO1-194 | 感情的な気配のない主観的な記憶の欠如は認知機能の低下の印である アモス C.Y. チェン (Amos C.Y. Cheung) (香港) |
| PO1-195 | モナスカス・ブルブレウス NTU 568 によって発酵された抽出物のアンカシン 568-R はマウスの記憶及び学習能力を向上し、アミロイド β プロテインを脳室内に注入されたラットはアルツハイマー病を誘発した。 チェン・リー・チェン (Chien Li Chen) (台湾) |
| PO1-196 | シンガポールの大規模な病院で認知症高齢者に抗凝固剤を使用する可能性 リー・リー・チェン (Li Li Chen) (マレーシア) |
| PO1-197 | 障害の AD スペクトル: 心臓血管系、代謝系および腎機能障害の最終段階 ジェンナ・ウィンチェスター (Jeanna Winchester) (アメリカ) |
| PO1-198 | ソーシャルネットワークが認知症発症リスクに与える影響は認知的予備力によって異なる。 フランシスカ S. ゼン (Francisca S. Then) (ドイツ) |
| PO1-199 | 認知的予備力は国によって違うか？低所得、中所得、高所得国における教育と認知機能の関係を国別に比較。 フランシスカ S. ゼン (Francisca S. Then) (ドイツ) |
| PO1-200 | 香港の滞在型ホームの住人で認知症を患う人とそうでない人の転倒リスクの決定要因 チウ・ルン・ユー (Chiu Lun Yu) (香港) |
| PO1-201 | 東京郊外の地域に住む 65 歳以上の高齢者に見られる生活習慣、食事と認知症状況の相関性 山本 千沙子 (Chisako Yamamoto) (日本) |
| PO1-202 | 星状細胞アポトーシスを誘発する抗うつ剤 チーキン・ゼン (Chee-Kin Then) (台湾) |
| PO1-204 | アルツハイマー病および軽度認知障害のある患者における非変性のポリアクリルアミドゲル電気泳動による高比重リボ蛋白の亜分画の差異 津崎 こころ (Kokoro Tsuzaki) (日本) |
| PO1-205 | 緑黄色野菜の摂取は認知機能低下を予防する可能性がある リン・ユエ (Ling Yue) (中国) |
| PO1-206 | 軽度認知障害のある親は皆認知症へと進むのか？一件のレビュー フー・ウーン (Fu Woon) (アメリカ) |
| PO1-207 | 私たちは口にしているものからできている: 私たちは大量の蜂の死、また人間の脳の構造や学習や記憶に関連する機能に損傷を与えるネオニコチノイド系の農薬を含む食物を食べているのです。 常見 裕之 (Hiroyuki Tsunemi) (日本) |
| 福祉ケアシステムの現在と未来 | |
| PO1-208 | 認知症ケアのための社会的なスペースの作成: 政府が規定を定め、組織がそれに応える。 アシュレー・カー (Ashley Carr) (オーストラリア) |
| PO1-209 | プロの専門家が考える田舎における認知症ケアとサポート構造の未来。専門家対象の探索的調査の結果。 |

| | |
|---------|---|
| | リアン・シラー・ウィリッヒ (Liane Schirra-Weirich) (ドイツ) |
| PO1-210 | 公益社団法人認知症の人と家族の会の本部で3年間に渡って行った認知症の問題に関する電話相談の日付分析。 奥野 茂代 (Shigeyo Okuno) (日本) |
| PO1-211 | 認知症の人の家族介護者による地域資源の活用に影響を与える要因。 Li-Chan Lin (台湾) |
| PO1-212 | 認知症の人の家族介護者からなるフォーカスグループ: 組織的かつ倫理的な質問。 リアン・シラー・ウィリッヒ (Liane Schirra-Weirich) (ドイツ) |
| PO1-213 | 公益社団法人認知症の人と家族の会の全47都道府県支部と本部での認知症に関連する電話相談の調査。 奥野 茂代 (Shigeyo Okuno) (日本) |

Poster Presentation 2

後半 (28 日 8:30~17:30、29 日 8:30~14:30)

| ケアの調整と連携 | |
|----------|--|
| PO2-214 | 農業を利用した総合的なケアを提供するローカルコモンズしんいち 寺岡 謙 (Ken Teraoka) (日本) |
| PO2-215 | 日本の救急病院における身体に不自由のある高齢患者の家族に対する看護婦の見解 杉山 智子 (Tomoko Sugiyama) (日本) |
| PO2-216 | タイと日本の救急病院での介護ケアの比較 グライナー 智恵子 (Chieko Greiner) (日本) |
| PO2-217 | これは14年間にわたる介護ケアに関する私自身の経験です。ケアの調整と連携はIPW管理によって達成され、BMIは健康状態の管理に適しています。私の認知症の妻からのいくつかの助言とよい取り組みについてお話しします。 塚脇 章生 (Akio Tsukawaki) (日本) |
| PO2-218 | これは14年間にわたる介護ケアに関する私自身の経験です。ケアの調整と連携はIPW管理によって達成され、BMIは健康状態の管理に適しています。私の認知症の妻からのいくつかの助言とよい取り組みについてお話しします。 塚脇 章生 (Akio Tsukawaki) (日本) |
| PO2-219 | ある看護婦の介護をしている家族と認知症高齢者との意見交換会からのレポート 温水 理佳 (Rika Nukumizu) (日本) |
| PO2-220 | 認知症の行動的及び心理的症状のための薬物療法を受けている在宅の認知症高齢者及びその家族の医療および介護チームに向けたアンケート調査: 介護のプロに向けた調査 辻村 真由子 (Mayuko Tsujimura) (日本) |
| PO2-221 | 香港での認知サービスの開発 - 認知症の人のケアパスの改善 ユエン・イー・タム (Yuen Yee Tam) (香港) |
| PO2-222 | 認知障害と認知症に関連するリスク因子としてのアルコールとドラッグ: すでにわかっていることと早期予防のためにできること タンヤ・ホフ (Tanja Hoff) (ドイツ) |
| PO2-223 | 早期発症と若年認知症のための仕事のサポート 沖田 裕子 (Yuko Okita) (日本) |
| PO2-224 | 地域社会の介護サービスの継続と国を超えた夢のプログラム インフイ・ウー (Yinghui Wu) (台湾) |
| PO2-225 | 認知症の人のニーズを調べそれに応える: 彼らの自由時間を中心に 清水 弥生 (Yayoi Shimizu) (日本) |
| PO2-226 | 日本でのケアマネジャーによる一人暮らし認知症高齢者のためのホームケアサービスプラン 松下 由美子 (Yumiko Matsushita) (日本) |
| PO2-227 | 精神病院からの退院支援とホームサポートを振り返る 松久保 道徳 (Michinori Matsukubo) (日本) |
| PO2-228 | 時間が貴重な時: 滞在型介護ホーム環境におけるデジタルストーリーテリング テオピスティ・クリサンターキ Theopisti Chrysanthaki (イギリス) |
| PO2-229 | 認知障害のある人とその介護者そして医療スペシャリストのための地域社会にあるメモリーカフェの多面的効果 古川 信房 (Nobufusa Furukawa) (日本) |
| PO2-230 | 行動的及び心理的な認知症の症状があり薬物療法を自宅で受けている認知症高齢者患者とその家族に関して医療及び介護チーム向けのサポートガイドラインについてのアンケート調査: 医師を対象にした調査 諏訪 さゆり (Sayuri Suwa) (日本) |
| PO2-231 | 認知症患者のための介護環境の改善にメモリークリニックが担う役割 杉原 百合子 (Yuriko Sugihara) (日本) |
| PO2-232 | スウェーデン、クリスチャンスタッドのメモリークリニック、CSK 医学クリニックと地域社会間の協力の混乱からの再建 アンマリー・リリエロス (Ann-Marie Liljeroth) (スウェーデン) |
| PO2-233 | 認知症の人の地域社会とネットワークにおける医療と看護ケアのプロからなるチームによるサポートシステム 木村 薫 (Kaoru Kimura) (日本) |
| PO2-234 | 認知症介護ケアの研修を修了した看護婦の介護経験: 長期介護病棟で勤務する看護婦に焦点 小松 美砂 (Misa Komatsu) (日本) |
| 介護者支援と研修 | |
| PO2-235 | 家族介護者にうつ病を引き起こす要因 星野 純子 (Junko Hoshino) (日本) |
| PO2-236 | 増加する認知障害にはこれまでよりもかなり長い介護時間が必要となる レザル・カンドカー (Rezaul Khandker) (アメリカ) |
| PO2-237 | 認知症患者の介護者にかかる負担やうつ病に対して介護者研修プログラムが与える効果 レイモンド・スイヒン・ヤン (Raymond Sui-Hing Yan) (台湾) |

| | |
|---------|--|
| PO2-238 | 早期認知症患者とその家族に同時にサポートを提供する:彼らの関係の改善 山田 広子 (Hiroko Yamada) (日本) |
| PO2-239 | 認知症ケアにおける家族のメンタルヘルスに影響する要因 - 自分の好きな生き方をすることの重要性 奥村 由美子 (Yumiko Okumura) (日本) |
| PO2-240 | 認知症患者の介護者のうつ病症状と負担を軽減する介護者教育 櫻井 博文 (Hirofumi Sakurai) (日本) |
| PO2-241 | 介護ホームで働く看護婦を対象とした倫理教育の研究～看護婦のモラルに対するこだわりと看護婦の特性の相関関係 藤野あゆみ (Ayumi Fujino) (日本) |
| PO2-242 | 日本で管理された認知症患者とその介護者のための独自の電話サポートシステム(岡山認知症コールセンター、ODCC) 中野 由美子 (Yumiko Nakano) (日本) |
| PO2-243 | おばあちゃんと私対世界 リー・ブルック (Lee Brooke) (イギリス) |
| PO2-244 | 大牟田市においてミッションを共有する認知症コーディネーターの教育と就職 大谷 るみ子 (Rumiko Otani) (日本) |
| PO2-246 | 認知症ケアにおける異文化交流:ブルガリアとイギリスの体験 アーレーン・アステル (Arlene Astell) (カナダ) |
| PO2-247 | 日本の藤沢地区での若い介護者:公立の小学校、中学校、高校と養護学校の教師を対象としたアンケート調査結果の分析 青木 由美恵 (Yumie Aoki) (日本) |
| PO2-248 | 長期介護施設での問題のある行動管理のためのコンピュータを利用した意思決定補助システムの開発:速報 インジュン・シー (Ying-Jyun Shih) (台湾) |
| PO2-249 | 介護者アセスメント用紙と介護者を理解するための図表 - ケアマネジャーが開発した介護者を理解するためのアセスメントツール 恒川 千尋 (Chihiro Tsunekawa) (日本) |
| PO2-250 | 認知症高齢者のグループホームにおいて、ストレスケアが職場環境や介護者の健康上のリスクに与える影響:鍼治療の効果 加藤 まい (Mai Kato) (日本) |
| PO2-251 | 人生の物語を語る:認知症に影響を受けた韓国の老夫婦の体験にふれて ミンヨン・クワック(Minyoung Kwak) (香港) |
| PO2-252 | メキシコでのスタッフ研修の介入、コストと結果:初の全国規模の研究からの結果速報 アズセナ・グズマン (Azucena Guzman) (イギリス) |
| PO2-253 | 認知症の人の介護や支援をする際に家族のストレス耐性に影響を与える要因 ジョアン・ブルック (Joanne Brooke) (イギリス) |
| PO2-254 | 中高年世代の介護者が仕事と家族の介護のバランスがとれるように支援する活動:公益社団法人認知症の人と家族の会の愛知支部が開催し、非営利組織のハートトゥーハートが取り入れた活動 松井 由香 (Yuka Matsui) (日本) |
| PO2-255 | 台湾で地域に住む認知症患者の臨床段階、摂食機能と栄養状態 イージュ・チェン (Yi-Ju Chen) (台湾) |
| PO2-256 | 親孝行の別の一面:認知症の親の介護者へのネガティブな影響 オン・ファン・チャン (On Fung Chan) (香港) |
| PO2-257 | 認知症の妻を看護する一方で、医療サービスに関わるということがどういふことかについての男性の理解:日本の事例 松本 恵子 (Keiko Matsumoto) (日本) |
| PO2-258 | 家族のサポートにおける自己アセスメントシートの重要性 鈴木 涼子 (Ryoko Suzuki) (日本) |
| PO2-259 | 長期介護施設における認知症の人の身体的に攻撃的な行動に対する看護師の意見:Q方法論のアプローチ スーフェイ・フアン (Su-Fei Huang) (台湾) |
| PO2-260 | 認知症の人の意思決定:シンガポールのある介護者の調査 レイ・リン・タン (Lay Ling Tan) (シンガポール) |
| PO2-261 | 日本での自宅療養中の高齢患者の能力に関する現状と問題 樋田小百合 (Sayuri Toida) (日本) |
| PO2-262 | アルツハイマー病患者の介護環境と予後が介護者の健康状態に与える影響 松村 美由紀 (Miyuki Matsumura) (日本) |
| PO2-263 | 認知症における日常の技能:配偶者の介護者によるアプローチ イングリッド・ヘルストーム (Ingrid Hellstrom) (スウェーデン) |
| PO2-264 | 台湾の認知症の人の介護者間の家族サポートの調査. メイファン・ヤン (Mei-Feng Yang) (台湾) |
| PO2-265 | 日本の長期介護施設における滞在高齢者の能力の現状と問題 渡辺 みゆき (Miyuki Watanabe) (日本) |
| PO2-266 | 認知症看護の認定看護婦として実地練習を支援する看護科学学校の教師の役割 細田 江美 (Emi Hosoda) (日本) |
| PO2-267 | 認知症の人の介護における介護者サポートグループの役割の評価:シンガポールの場合 アナベル・チャウ (Annabelle Chow) (シンガポール) |
| PO2-268 | トイレサービスのエキスパートによる生活の質の支援:宇治市でのトイレ介護仲間の設立 森田マサ (Masa Morita) (日本) |
| PO2-269 | 認知症の段階アプローチに関する介護プラクティスの初の研究 高見 美保 (Miho Takami) (日本) |
| PO2-270 | 介護ホームにおける医療介護への家族の関与 ムルナ・ダウンス (Murma Downs) (イギリス) |
| PO2-271 | 性別による介護の負担を感じる度合いの比較。日本での認知症高齢者のケアをする家族介護者のストレス耐性。 植村 小夜子 (Sayoko Uemura) (日本) |
| PO2-272 | 認知症高齢者の主な家族介護者にある介護能力を探る ウェンユン・チェン (Wenyun Cheng) (台湾) |

| | |
|------------------|--|
| PO2-273 | 老人性認知症のひとと家族介護者のためのテレケアの効果 シューリン・ウェイ (Shulin Uei) (台湾) |
| PO2-274 | 日本での在宅療養中の高齢認知症患者の現状と問題 小木曾 加奈子 (Kanako Ogiso) (日本) |
| PO2-275 | サポートされる側からする側へ: 介護者の強みを生かした介護者サポートシステムの創造 國井 優子 (Yuko Kunii) (日本) |
| PO2-276 | 認知症介護者の運動、健康と負担の相関関係 エレニ・ディマコポロ (Eleni Dimakopoulou) (ギリシャ) |
| PO2-277 | 壮年期に家族介護者のためのコミュニティを立ち上げる動機 坂梨 さゆり (Sayuri Sakanashi) (日本) |
| 地域社会への参加と連携 | |
| PO2-278 | スブラッシュチャット - 作業療法士とジャーミールツハイマー協会が運営する認知症のひととその介護者のための地域の水泳グループ サラ・ブレイク (Sarah Blake) (イギリス) |
| PO2-279 | 地域社会とのパートナーシップ活動 アン・シューマツハー (Anne Schumacher) (ニュージーランド) |
| PO2-280 | 医師会による認知症患者をサポートするためのコミュニティの改善 海村 孝子 (Takako Umimura) (日本) |
| PO2-281 | 養護学校の子供達と介護ホームの住人との世代を超えた交流 南部 登志江 (Toshie Nanbu) (日本) |
| PO2-282 | 台湾北部の地方にある認知症にやさしいコミュニティ施設の評価にコミュニティ対応モデルを適用 イーチェン・チウ (Yi-Chen Chiu) (台湾) |
| PO2-283 | 認知症とともに問題なく旅行に出かける - 未来の乗り物のデザインには認知症の人々をまず考える。 アンディー・ハイド (Andy Hyde) (イギリス) |
| PO2-284 | 早期発症認知症の人の雇用の現状 - 雇用主を対象にしたアンケートの結果とケーススタディ 林 弘康 (Hiroyasu Hayashi) (日本) |
| PO2-285 | QRコードのついた「安全のためのオレンジバンド」は徘徊する認知症患者を見つけるために役立つ。 福田 英道 (Hidemichi Fukuda) (日本) |
| PO2-286 | 認知症カフェで開催するイベントに関連する波及効果 町 沙織 (Saori Machi) (日本) |
| PO2-287 | 「認知症行動主義: イギリスと日本、そしてそれ以上につながりインパクトを出す。」 フィリー・ヘアー (Philly Hare) (イギリス) |
| PO2-289 | 認知症を支援する活動ネットワークの設立 カトリン・ヘッド・ジョーンズ (Catrin Hedd Jones) (イギリス) |
| PO2-290 | ひとと家族の認知症、地域の介護者への参加 - 保育園 - 昔の小学校を通して、認知症カフェの事例 原渕 洋一 (Yoichi Harabuchi) (日本) |
| PO2-291 | 認知症のひとのためのデイケアセンターでの勤務を通して社会に参加する。 水野 裕 (Yutaka Mizuno) (日本) |
| PO2-292 | 自分の人生は自分で作るしかないのだから、今日も地域社会との関わりを続けよう! 池田 右文 (Migifumi Ikeda) (日本) |
| PO2-293 | 認知症のひとと介護者が地域社会に参加するツールとしてのアート: アメリカと日本での美術館プログラムと劇場プログラムのケーススタディ 林 陽子 (Yoko Hayashi) (日本) |
| PO2-294 | 介護ホームにおける口腔衛生: 地元の地域社会での患者と市民参加のプロジェクト カミーユ・クロニン (Camille Cronin) (イギリス) |
| PO2-295 | 介護ホームを有効化する研究 - オンラインサポートツールの開発 アダム・スミス (Adam Smith) (イギリス) |
| PO2-296 | 台湾の認知症コミュニティセンター リーユー・タン (Li-Yu Tang) (台湾) |
| PO2-297 | 日本における初期の認知症のひとのニーズに対する支援。 大橋 美由紀 (Miyuki Ohashi) (日本) |
| PO2-298 | 認知症のひととその家族の生活支援に必要な社会的市民〜創造的な社会的資源を通して市民の力を伸ばし、活用する。 長島 徹 (Toru Nagahima) (日本) |
| 認知症にやさしい地域社会 - 2 | |
| PO2-299 | 認知症のひとに向けて、見守れる地域へ。左京区岩倉での取り組み。 松本 恵生 (Shigeo Matsumoto) (日本) |
| PO2-301 | 「姉カフェ」に楽しく笑って参加しよう。 永橋 治郎 (Jiro Nagahashi) (日本) |
| PO2-302 | 「自分の自然な場所を見るのはよいことである」アウター・ヘブリティーズでの認知症のひとのニーズに応えた創造性、バイリンガリズム、文化に特定した記憶と口頭伝承が果たす役割の探求 ジョナサン・マクレオッド (Jonathan Macleod) (イギリス) |
| PO2-303 | 認知症にやさしい地域社会には何が必要か サラ・マイルズ (Sara Miles) (イギリス) |
| PO2-304 | 認知症のひとが犯した社会的な事件と身体障害者のための差別を排除する法律の「合理的配慮」 古川 隆 (Takashi Furukawa) (日本) |
| PO2-305 | 認知症のひとと介護者のために日本の昔ながらの家(古民家)を利用した認知症カフェの効用 川井 元晴 (Motoharu Kawai) (日本) |
| PO2-306 | 地域社会にいる認知症認定看護婦の役割: ケーススタディを通して |

| | |
|---------------------|--|
| | 中村 ユキ (Yuki Nakamura) (日本) |
| PO2-307 | コンビニエンスストアを題材にした認知症にやさしい地域社会プログラムの開発 松本 広重 (Hiroshige Matsumoto) (日本) |
| PO2-308 | 認知症にやさしい地域社会のアセスメントと対応マニュアル: 地域社会主体のボトムアップアプローチの開発と活用 河野 義行 (Yoshiyuki Kawano) (日本) |
| PO2-309 | 鈴鹿市名太地区における「D-カフェ・健康測定会」の取り組み 佐野 佑樹 (Yuki Sano) (日本) |
| PO2-310 | 産業・教育機関・政府の長期介護保険施設に関する協働プロジェクトにおける管理マニュアルの準備中に出てきた問題の検査 北川 明子 (Akiko Kitagawa) (日本) |
| PO2-311 | 東日本大震災の際の認知症の人と家族の会福島県支部の行った活動と役割 芦野 正憲 (Masanori Ahino) (日本) |
| PO2-312 | 加古川の地元市民による早期発症型認知症の人、その家族と支援者のための地域社会の構築。 吉田 昌美 (Masami Yoshida) (日本) |
| PO2-313 | 台湾の認知症にやさしい地域社会 リーユー・タン (Li-Yu Tang) (台湾) |
| PO2-314 | 「旅のことば」で認知症にやさしい地域社会の実現を 金子 智紀 (Tomoki Kaneko) (日本) |
| PO2-315 | 認知症にやさしい交通機関の提案 前田 良一 (Ryoichi Maeda) (日本) |
| PO2-316 | 大牟田市における認知症の人が自信を持って外出できる地域社会の構築 宮田 真由美 (Mayumi Miyata) (日本) |
| PO2-317 | 認知症にやさしいウエスト・ダンバートンシャー自治体 ブライアン・ポールディング・クライド (Brian Polding Clyde) (イギリス) |
| PO2-318 | 田舎の認知症にやさしい地域社会がどのように認知症の家族を支援しているか スティーブン・ヘンダーソン (Steven Henderson) (イギリス) |
| PO2-319 | 台湾における認知症高齢者の生活体験 ミャオチュアン・チェン (Miao-Chuan Chen) (台湾) |
| PO2-320 | 認知症にやさしい地域社会: イギリス、ウェールズからの教訓 ジュディス・フィリップス (Judith Phillips) (イギリス) |
| 終末期ケア | |
| PO2-321 | グループホームに住む認知症高齢者の終末期ケアのカスタマイズ - グループホームマネジャーのフォーカス・グループ・インタビューの結果をもとに 柳沢 美千代 (Michiyo Yanagisawa) (日本) |
| PO2-322 | 日本のサンプルに使用するために適応した認知症後期の生活の質 (QUALID) スケール 永田 優馬 (Yuma Nagata) (日本) |
| PO2-323 | 終末期が近づいている認知症患者が平穏に旅立つための仕組みづくり 佐藤 恵子 (Keiko Sato) (日本) |
| PO2-324 | 日本における認知症高齢者のためのグループホームでの終末期ケアの特徴 - マネジャー対象のアンケート調査の結果 平松 真由子 (Mayuko Hiramatsu) (日本) |
| PO2-325 | 長期介護施設に滞在している認知症の人のための緩和ケア: SWOT 分析 シウルリー・フアン (Hsiul-Li Huang) (台湾) |
| PO2-326 | 長期介護施設に滞在している認知症の人にアドバンスケアプランニングを提供する看護婦に関連した要素 シウルリー・フアン (Hsiul-Li Huang) (台湾) |
| PO2-327 | 高齢者の終末期ケアについての意思決定サポート 宇佐美 里圭 (Rika Usami) (日本) |
| PO2-328 | 高度の認知症の人のいる家族に摂食に関する意思決定の際の支援を行う: 総合的レビュー ヘレン・ユエライ・チャン (Helen Yue-lai Chan) (香港) |
| PO2-329 | 認知症の人がいる家族のためのファミリーケアに関するアセスメント 小澤 佳子 (Yoshiko Ozawa) (日本) |
| 認知症の人と介護者の参加 | |
| PO2-330 | 「本当に参加するのが楽しい！」西オーストラリアのカップル向けの芸術的な冒険プログラム ブロンテ・パーキン (Bronte Parkin) (オーストラリア) |
| PO2-331 | オーストラリア、ビクトリアにある地方のコミュニティに住む認知症の人へのサポートとサービスの必要性: デルフィ研究 マイケル・バウアー (Michael Bauer) (オーストラリア) |
| PO2-332 | 「ビデオと音声インタビューを通じて語る認知症の人と家族介護者の体験」というタイトルのウェブサイトの構築と活用 竹内 富美子 (Tomiko Takeuchi) (日本) |
| PO2-333 | ジュロンコミュニティ病院認知症ケアプロジェクト: 認知症の人の参加を促すための入院患者のリハビリテーションにおける革新的なアプローチ チー・シオン・チュア (Chi Siong Chua) (シンガポール) |
| PO2-334 | 認知症におけるカップルを中心とした取り組みの目的: カップルが二人で参加できる取り組みのスクールの確認 テレサ・ビエルステン (Therese Bielsten) (スウェーデン) |
| PO2-335 | 生活習慣への新しいアプローチ - WOW ウェルネスの世界 ピーター・バーワート (Peter Bewert) (オーストラリア) |
| PO2-336 | 日本で滞在型施設に住む認知症高齢者 (DEOS) のための穏やか (幸福度) スケールの利用価値の検証 - 家族と看護婦の評価の比較 辻村 裕美 (Hiromi Tsujimura) (日本) |
| PO2-337 | 認知症の人がグループでできる活動を支えるテクノロジー |

| | |
|---------|---|
| | アーレーン・アステル (Arlene Astell) (カナダ) |
| PO2-338 | 日本の地域社会における3つの認知症介護の事例 片山 智栄 (Chie Katayama) (日本) |
| PO2-339 | 現在の日本の長距離看護に関する文献レビュー 會田 信子 (Nobuko Aida) (日本) |
| PO2-340 | 独特のコミュニケーションパターンと特性: 認知症を患う愛する人との会話 ダニエラ・アリエリ (Daniella Arieli) (イスラエル) |
| PO2-341 | 夕暮症候群、睡眠の質と地域の徘徊 - アルツハイマー病との共存 イェン・フア・シー (Yen Hua Shih) (台湾) |
| PO2-342 | 認知症の人とその家族の声を聞く 認知症の人と家族の会東京支部 大野 京子 (Kyoko Ohno) (日本) |
| PO2-343 | 「人に会いたい、人と話したい」- 日本全国から集合 堀井 隆子 (Takako Horii) (日本) |
| PO2-344 | ビジュアルアートは認知症の人の生活の質と幸福度にとって有益か? 認知症とイメージネーションからの調査結果 ジル・ウィンドル (Gill Windle) (イギリス) |
| PO2-345 | 日本の「アルツハイマーカフェ」: 慣例と問題 島岡 昌代 (Masayo Shimaoka) (日本) |
| PO2-346 | 楽しい時を過ごし、人生を楽しむ - コミュニケーションエイド ベリンダ・ブラック (Belinda Black) (イギリス) |
| PO2-347 | 認知症初期段階の人に研究への参加を促す。 ディアナ・シャック・ソフト (Diana Schack Thoft) (デンマーク) |
| PO2-348 | 記憶の匂い - 認知症の人のための小グループでの取り組み リー・レン / ユーニス・タン (Li Leng Eunice Tan) (シンガポール) |
| PO2-349 | 早期発症型認知症の人のために人生を生きがいのあるものにするために必要なものの喪失と再構築 関口 綾子 (Ayako Sekiguchi) (日本) |
| PO2-350 | 世代を超えて楽しめる卓上ゲームデザイン: 高齢のアルツハイマー病患者とともに地域の介護実習を通して大学生の参加を促す シューイン・リー (Shu-Ying Li) (台湾) |
| PO2-351 | 私たちのツリーハウス: 神経認知障害があっても同時に同じ立場の人と話すことができるビデオ会議 デービッド・ポールソン (David Paulson) (アメリカ) |
| PO2-352 | 台湾での軽度認知症の人とその家族の間の対話経験をより強いものにするコミュニティリハビリテーションプログラム ユーイン・チュー (Yuying Chu) (台湾) |
| PO2-353 | 繋がろう - 認知症の人のためのデジタルゲーム アーレーン・アステル (Arlene Astell) (カナダ) |
| PO2-355 | ソーシャルエンゲージメント - 若年発症型記憶障害を持つ人々の視点 ヴィルバトゥリ・リナネン (Virvatuli Rynanen) (フィンランド) |
| 疫学 | |
| PO2-356 | 長期保険施設に滞在する認知症高齢者の認知症の行動的及び心理的症状、介護依存、生活の質同士の関連性 鈴木 みずえ (Mizue Suzuki) (日本) |
| PO2-357 | 人口ベースの研究における偶発性の軽度認知障害と認知症の臨床的特徴 菱川 望 (Nozomi Hishikawa) (日本) |
| PO2-358 | アルツハイマー病患者における掻痒症の有病率: 多地域での疫学研究 生駒 晃彦 (Akihiko Ikoma) (日本) |
| PO2-359 | 高齢者コホートにおける認知症の人の交通事故の発生率 ユージョン・キム (You Joung Kim) (韓国) |
| PO2-360 | コリンエステラーゼ阻害剤及び NMDA 受容体アンタゴニストの少量処方 の現状 荒川 千秋 (Chiaki Arakawa) (日本) |
| PO2-361 | 認知症研究のためのブレイン: コホートの特徴 ポール・フランシス (Paul Francis) (イギリス) |
| PO2-362 | コホートの中で認知症にかかっていない人に脳の寄付を求める: 認知と脳病理学のための結果 Paul Francis (イギリス) |
| PO2-363 | WEB パネルを用いた認知症患者および介助者の QOL・生産性損失調査 五十嵐 中 (Ataru Igarashi) (日本) |
| PO2-364 | 65 歳以上の自発的な脳のドナーを対象にした電話とビデオを使った精神測定アセスメントを評価する試験的研究 ヘレン・コストロ (Helen Costello) (イギリス) |
| PO2-365 | 研究の終了時には脳が寄付される長期間監視されたコホートにおけるロス ヘレン・コストロ (Helen Costello) (イギリス) |
| PO2-366 | 脳のドナーとなる可能性のある 65 歳以上の人のうち主観的な認知障害 (SCI) のある参加者の有病率と特徴 ヘレン・コストロ (Helen Costello) (イギリス) |
| ケアモデル | |
| PO2-367 | 仕事で要求されるものがより高くなると認知症高齢者の家族介護者がより高い介護のニーズに応えることが困難になる: 横断的に実施したアンケート調査を用いた構造的均衡モデル ユーヌー・ワン (Yu-Nu Wang) (台湾) |
| PO2-368 | 概念分析: 医療ケアにおける高齢者の人権 青木 頼子 (Yoriko Aoki) (日本) |
| PO2-369 | パーソン・センタードネスへの新しいアプローチ パタフライ・ケア・モデルのオーストラリアにおける試験使用 |

| | |
|------------------------|--|
| | ピーター・バーワート (Peter Bewert) (Australia) |
| PO2-371 | 滞在型高齢者ケアにおける認知症の人のためのケアに有効なモデル マイケル・ブリース (Michael Preece) (オーストラリア) |
| PO2-372 | ゴールデンチケット - 認知症の革新的なモデル エマ・コステロ (Emma Costello) (イギリス) |
| PO2-373 | 職員の研修、認知症の人の BPSD 管理と長期介護によるバーンアウトの削減 アンドレア・ファッボ (Andrea Fabbo) (イタリア) |
| PO2-374 | 認知症にやさしい病院: イタリアでの初期の体験 アンドレア・ファッボ (Andrea Fabbo) (Italy) |
| PO2-375 | ホグワークモデルをニュージーランド事情に合ったものに: ファレアロハケアビレッジ ケイ・シャノン (Kay Shannon) (ニュージーランド) |
| PO2-376 | 認知症の人の尊厳: 職業間の違い 内田 達二 (Tatsuji Uchida) (日本) |
| PO2-377 | 利用者の参加: 研究の質問から導入に至るまで サリー・グロベナー (Sally Grosvenor) (オーストラリア) |
| PO2-378 | THE COGS CLUB: 認知症の人のためのマルチモードで心理社会的な取り組み アンドレア・ファッボ (Andrea Fabbo) (Italy) |
| PO2-379 | 台湾モデル: 統合認知症ケアモデル ミンチー・パイ (Ming-Chyi Pai) (台湾) |
| PO2-380 | 認知症高齢者ホームのケア「シンフォニー」 杉谷 光洋 (Mitsuhiro Sugitani) (日本) |
| PO2-381 | 子供達と世代を超えた終日プログラムに参加した認知症高齢者の進歩: うつ病改善を検証する報告の事例 (GDS15) 目黒 里美 (Satomi Meguro) (日本) |
| 最新の治療と今後の展開 | |
| PO2-382 | アミロイド β 2 を注射するアルツハイマー病のマウスモデルにおいて、栄養補助による認知機能の改善が自食作用の活性化によりもたらされる。 ユンファン・リアオ (Yung-Feng Liao) (台湾) |
| PO2-383 | 認知症のための臨床実験におけるインテピルディン(RVT-101)の概要: アルツハイマー病とレビー小体型認知症における認知機能と日常生活の活動及び成長計画の効果 イラン・フォゲル (Ilan Fogel) (アメリカ) |
| PO2-384 | 日本の健康者にインテピルディン(RVT-101)の安全面と薬物学的な検査のためのオープンラベルの反復投与試験 イラン・フォゲル (Ilan Fogel) (アメリカ) |
| PO2-385 | 消化管にある β アミロイドが認知障害を起こす可能性: 大豆フラボノイドの予防効果 ユエン・ハン / ジュリア・リウ (Yuen Hang Julia Liu) (香港) |
| PO2-386 | マウスを使った A. ラセモサスの向知性効果の調査 Hanumanthachar Karichedu Joshi (インド) |
| PO2-387 | 実際にある病院の設定で軽度アルツハイマー病と他の認知症の中国人患者に対するスーベナイドの効果と忍容性。オープンラベル研究。 レンウィン・チュウ (Leung-Wing Chu) (香港) |
| PO2-388 | アルツハイマー病治療のためのリボソームの準備 ニーナ・イバノバ (Nina Ivanova) (ウクライナ) |
| PO2-389 | β アミロイドが誘発する毒性に対するグレリンアゴニスト HM01 の保護作用: マウスの脳腸軸に注目 ヤー・イー・サン (Ya Yi SUN) (香港) |
| PO2-390 | D 細胞の仮説に基づくアルツハイマー病と総合失調症の新しい治療戦略 ジャージー・レゼック (Jerzy Leszek) (ポーランド) |
| PO2-391 | 非可聴高周波数音を利用した認知症の行動及び心理的症状(BPSD)のための非薬物的増強療法に関するオープンパイロット研究 山下 祐一 (Yuichi Yamashita) (日本) |
| 新しい研究手法 | |
| PO2-392 | アルツハイマー: アミロイド β の抑制あるいは緩和 ウルフガング・シュラム (Wolfgang Schramm) (ドイツ) |
| PO2-393 | 認知症におけるワーキングメモリーと抑制障害の区別 トレバー・クローフォード (Trevor Crawford) (イギリス) |
| PO2-394 | スコボラミン、ジアゼパムとマウスの自然加齢によって誘発されたガンゲチン逆行記憶障害 ハヌマンタチャー・カリチエド・ジョシ (Hanumanthachar Karichedu Joshi) (インド) |
| アルツハイマー病以外の認知症 | |
| PO2-395 | 健忘性軽度認知障害のリスク因子としての嗅覚障害 ユダ・ツラナ (Yuda Turana) (インドネシア) |
| PO2-396 | アルツハイマー病の病因に関連する BMP 経路の不均衡 スン・リン (Sun Lin) (中国) |
| PO2-397 | 血管性認知症患者の手段的日常生活動作能力はアルツハイマー病患者よりも低い。 ウェイ・リー (Wei Li) (中国) |
| PO2-398 | 前頭側頭認知症の右側頭葉型 ホセ・アントニオ・ロホ・アレドロ (José Antonio Rojo Aladro) (スペイン) |
| リハビリテーションとその可能性 | |
| PO2-399 | 介護体験を語る - 認知症患者の家における安全のために「住宅リフォーム」を実施 リーティン・フアン (Li Tin Huang) (台湾) |

| | |
|--------------|--|
| PO2-400 | 重度の認知症向けデイケア施設の利用者のための治療プログラムを決めるプロセス 石井 由美子 (Yumiko Ishii) (日本) |
| PO2-401 | 資源に乏しい地域に住む軽度認知障害や認知症の人のための地域で行うエクササイズ取り組み ジュンチェン・ヤン (Jung-Cheng Yang) (台湾) |
| PO2-402 | 認知的作業は休息中の脳の活性化に影響するか？ 大杉 紘徳 (Hironori Osugi) (日本) |
| PO2-403 | 重度の認知症向け認知テストの開発 - 信頼性、有効性、応答性と解釈が容易であるかの検査 田中 洋之 (Hiroyuki Tanaka) (日本) |
| PO2-404 | 認知症プログラムを利用して健やかに生きる: 初期の認知症の人向けの自己管理の原則を用いたデザイン、開発と価値 ゾーイ・キャンベル (Zoe Campbell) (イギリス) |
| PO2-405 | 高齢者の施設からグループホームへのトランジションとホームで年を重ねるために必要なこと インフイ・ウー (Yinghui Wu) (台湾) |
| PO2-406 | 若年発症型認知症の人に能力の強化や生活の質の改善を促す活動-9年間のケーススタディ インフイ・ウー (Yinghui Wu) (台湾) |
| PO2-407 | 体を使う活動量と認知機能、日常生活の活動および重度の認知症に見られる行動的および心理的兆候や症状との相関性 石丸 大貴 (Daiki Ishiaru) (日本) |
| PO2-408 | 日本におけるコミュニティベースの作業療法 - 社会参加 石丸 大貴 (Daiki Ishimaru) (日本) |
| PO2-409 | 認知症の人に対するエクササイズトレーニングプログラムの適用と効果 - 新竹の認知症コミュニティケアセンターでの体験 イーチェン・ツァイ (Yi-Chen Tsai) (台湾) |
| PO2-410 | 囁語検査による高齢者の認知機能と聴覚の関係 吉村 隆子 (Takako Yoshimura) (日本) |
| テクノロジーと認知症 | |
| PO2-411 | 四コーナーステップテストで認知障害を検出 ユーシウ・チュウ (Yu-Hsiu Chu) (台湾) |
| PO2-412 | ソーシャルロボットが認知力低下の高齢者の社会参加に与える影響の研究 カイリー・ブラット (Kylie Pratt) (オーストラリア) |
| PO2-413 | 認知症診断ツール: さりげない生理的および行動パターンを観察するアプローチ クリスティン・ニューマン (Kristine Newman) (カナダ) |
| PO2-414 | 認知症の人と慣れ親しんだ介護者のための即時にアクセスできる情報とコミュニケーション技術を利用したサポートを提供している素晴らしい実例 今野 りえ (Rie Konno) (日本) |
| PO2-415 | 認知症ケアのためのインタラクティブアプリを使ったプラットフォームサービス ジー・ヒャン・ジェオン (Jee Hyang Jeong) (韓国) |
| PO2-416 | 認知症の人と介護者のためのインターネットを利用した取り組み: 系統的なレビュー、メタ分析と今後の展望 キエレン・イガン (Kieren Egan) (イギリス) |
| PO2-417 | 認知症の人と介護者のためのウェブベースのプラットフォームの開発: ユーザー参加の研究 パラスケヴィ・ザフェリディ (Paraskevi Zafeiridi) (イギリス) |
| PO2-418 | アクティブ@ホーム: 認知症の人のソーシャルネットワーク内でできる遊び満載で柔軟なマルチモードの日常トレーニングやモバイルで複数の感覚器官の診断及び提案システム ルーカス・パレッタ (Lucas Paletta) (オーストリア) |
| 幸福度 | |
| PO2-423 | 昨日を思い出し今日をケアする (RYCT) 認知症と生きる家族のための独創的な回想アートプロジェクトを通じた社会参加 パム・シュバイツァー (Pam Schweitzer) |
| 認知症にやさしい地域社会 | |
| PO2-427 | 岡山県笠岡市にある認知症カフェの経験から、日本のモデルである認知症カフェのあり方について 高橋 望 (Nozomu Takahashi) (日本) |